当グループは成長を継続

クレディ・アグリコル S.A.およびクレディ・アグリコル・グループの表示実績及び基礎的実績（2024 年度第 1 四半期）

	クレディ・アグリコル S.A.		クレディ・アグリコル・グループ	
	表示	基礎的	表示	基礎的
収益	**68 億 600 万ユーロ** 前年同期比+11.2%	**67 億 9700 万ユーロ** 前年同期比+10.5%	**95 億 2500 万ユーロ** 前年同期比+6.7%	**94 億 7500 万ユーロ** 前年同期比+5.8%
経費	**-36 億 6900 万ユーロ** 前年同期比 - 4.5%	**-36 億 4900 万ユーロ** 前年同期比 - 5.0%	**-55 億 8900 万ユーロ** 前年同期比 - 5.4%	**-55 億 6900 万ユーロ** 前年同期比 - 5.8%
営業総利益	**31 億 3700 万ユーロ** 前年同期比+37.6%	**31 億 4800 万ユーロ** 前年同期比+36.1%	**39 億 3600 万ユーロ** 前年同期比+30.4%	**39 億 600 万ユーロ** 前年同期比+28.1%
リスク関連費用	**-4 億ユーロ** 前年同期比+6.9%	**-3 億 8000 万ユーロ** 前年同期比+1.6%	**-6 億 5100 万ユーロ** 前年同期比 - 18.9%	**-6 億 3100 万ユーロ** 前年同期比+15.2%
純利益グループ帰属分	**19 億 300 万ユーロ** 前年同期比+55.2%	**19 億 3300 万ユーロ** 前年同期比+54.7%	**23 億 8400 万ユーロ** 前年同期比+42.8%	**23 億 8300 万ユーロ** 前年同期比+40.8%
コスト比率	**53.9%** 前年同期比 - 0.5 ポイント （SRF を除く）	**53.7%** 前年同期比 - 0.4 ポイント （SRF を除く）	**58.7%** 前年同期比 - 0.5 ポイント （SRF を除く）	**58.8%** 前年同期比 - 0.2 ポイント （SRF を除く）

見通し:2024 年度の業績は 2025 年度の野心的な中期経営計画の目標を 1 年早く達成する見込み

SRF を除く売上総利益（GOI）の増加と SRF 積立期間の終了により、**第 1 四半期としては過去最高**

ユニバーサル・バンキング・モデルの発展継続

- **顧客重視のユニバーサル・バンキング・モデルの継続的発展**は、フランスとイタリアにおける新規住宅ローンの減速にもかかわらず、活発な顧客獲得、資金流入の増加、保険事業の継続、高水準で均衡のとれた資産運用への純資金流入が後押し
- **大口顧客部門の力強い勢い**により、CIB の四半期業績は過去最高、CACEIS のカストディー及び管理資産は記録的水準に

戦略事業の進展

- 進行中の事業活動の継続:ISB 統合、CAWL の創設、Worldline とのジョイント・ベンチャー、Alpha Assciates の買収完了、2024 年半ばに予定されている Degroof Petercam の買収に関する作業の継続
- Victory Capital との戦略的パートナーシップに関する覚書締結を発表

エネルギー移行への支援拡大

- 以下の相補的で秩序立った 3 分野を基にした移行計画:

1. 再生可能エネルギー及び低炭素エネルギー・プロジェクトへの融資を重視し、**再生可能エネルギー及び低炭素エネルギー開発を加速**
2. **ユニバーサル・バンクとして、あらゆる者のエネルギー移行を支援**:あらゆる企業及び世帯を支援
3. **炭素エネルギー融資からの独自の撤退の道筋を構築**

- 2023 年末時点のネットゼロへの道筋は、2030 年の目標に沿っています。

非常に強固な資本・流動性ポジション

- クレディ・アグリコル S.A.の段階的導入 CET1 レシオは 11.8%
- CA グループの段階的導入 CET1 レシオは 17.5%

ドミニク・ルフェーブル
SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「すべての当社顧客の長期的な移行を支援する堅調な実績」

フィリップ・ブラサック
クレディ・アグリコル S.A.最高経営責任者

「当社の中期経営計画の野心的な財務目標が 3 期連続で予定よりも 1 年早く、すなわち 2024 年末までに達成されるであろう」

本プレスリリースは、クレディ・アグリコル S.A. に加え、クレディ・アグリコル S.A. の各事業体とクレディ・アグリコル S.A. の 60.2%を保有するクレディ・アグリコル地域銀行から構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントしています。基礎純利益計算のためのあらゆる指標において修正再表示されている特殊要因の詳細については、当プレスリリースの付属資料をご覧ください。

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

当グループは、当四半期において、ユニバーサル・バンキング・モデルの発展が続いたことで、全事業部門で好調な営業活動を経験しました。顧客獲得総数は力強く推移しました。2024 年度第 1 四半期、当グループはリテール・バンキング部門で 51 万 2,000 人の新規顧客を獲得し、顧客基盤は 6 万 7,000 人増加しました。具体的には、当四半期中、フランスのリテール・バンキング部門の新規顧客数が 40 万 9,000 人増、（イタリアとポーランドの）国際リテール・バンキング部門の新規顧客数が 10 万 3,000 人増となり、顧客基盤も拡大しました（それぞれ 5 万 7,000 人増、10,000 人増）。

リテール・バンキング部門では、オン・バランスシートの預金がフランス及びイタリアで前年同期比 3.9%増の総額 8,240 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 3.7%増、イタリアで 5.8%増）となりました。貸付残高は、フランス及びイタリアで前年同期比 1.2%増の総額 8,720 億ユーロ (地域銀行及び LCL で 0.3%増、イタリアで 1.5%増)となりました 。フランス[1]とイタリアの 2024 年 1 月、2 月の住宅ローン組成は減速し、2023 年第 1 四半期と比べて地域銀行で 45%減、LCL で 54%減、CA イタリアで 11.6%減となりました。損害保険のクロスセル・レートは、地域銀行では 43.4% (2023 年第 1 四半期と比べて 0.5 パーセント・ポイント増)、LCL では 27.8% (同 0.4 パーセント・ポイント増)、CA イタリアでは 19.3% (同 2.0 パーセント・ポイント増) に上昇しました。

資産運用では、欧州市場とは対照的に、主要顧客セグメント、運用の種類、地理的地域ごとの資金流入は高水準でバランスのとれたものとなりました。貯蓄・退職金では、クレディ・アグリコル・アシュアランスが過去最高の総資金流入（86 億ユーロ、前年同期比 4.3%増）となり、組成におけるユニット・リンク型商品の比率は高水準（39.1%）で推移しました。損害保険は、契約ポートフォリオの件数が前年同期比 3.4%増の 1,600 万件となりました。運用資産は過去最高水準となり、2023 年 3 月末と比べて、資産運用（2 兆 1,160 億ユーロ、9.4%増）、生命保険（3,350 億ユーロ、3.2%増）、ウェルス・マネジメント（IWM と LCL で 1,970 億ユーロ、6.3%増)で増加しました。

SFS 部門の活動も好調で、CA コンシューマー・ファイナンスの消費者金融残高（2023 年 3 月末に比べて 8.4%増）は残高全体の 53%[2]を占める自動車金融活動が原動力となり増加し、CAL&F の組成及びリース残高も増加しました（194 億ユーロ、2023 年 3 月末に比べて 9.1%増）。

大口顧客の勢いは力強く、プライマリー・クレジットと、商業銀行業務の成長の恩恵を受けた融資活動が原動力となり、資本市場及び投資銀行業務の収益が高水準となりました。CACEIS は、過去最高のカストディー資産（5 兆 150 億ユーロ、2023 年 3 月末と比べて 19.4%増）と管理資産（3 兆 4,150 億ユーロ、同 54.1%増）となり、ISB の統合、市場の好影響、商業向けの好調な勢いの恩恵を受けました。

当グループの各事業部門で、力強い水準の活動が見られました（インフラを参照）。

エネルギー移行への支援拡大

当グループは、相補的で秩序立った 3 分野を基にした移行計画を策定しました。

まず、当グループは、再生可能エネルギー及び低炭素エネルギー・プロジェクトへの融資を重視し、かかるエネルギーの導入拡大に取り組んできました。これにより、当グループの低炭素エネルギー融資のエクスポージャーは、2020 年から 2023 年に[3]80%増加し、2023 年 12 月 31 日時点で 197 億ユーロとなりました。さらに、CAA の再生可能エネルギー生産への融資は 2023 年に 14%増加し、2023 年 12 月 31 日時点で 13.5 ギガワットとなりました。

---

[1] *フランスの住宅ローン組成：フランス銀行によれば、2024 年 1 月、2 月の累計で前年同期比 36%減*

[2] *CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業*

[3] *クレディ・アグリコル・グループのすべての事業体の顧客が生産する再生可能エネルギーからなり、CACIB の核エネルギー残高を含む低炭素エネルギー残高*

同時に、クレディ・アグリコルはユニバーサル・バンクとして、すべての顧客のエネルギー移行を支援しています。これにより、クレディ・アグリコル CIB のグリーン・ローンのポートフォリオは[4]、2022 年 12 月から 2024 年 3 月までに 43%増加し、2024 年 3 月 31 日現時点で 177 億ユーロとなりました。CA コンシューマー・ファイナンスが 2023 年に融資した車両のうち、電動車[5]は 4 分の 1 を占めており、顧客にソリューションを提供しています（*J'écorénovemon logement*、*Agilauto*、*Carbioz* カーボン・クレジット取引プラットフォーム）。

最後に、クレディ・アグリコルは炭素エネルギー融資からの独自の撤退の道筋を構築しています。2023 年末のネットゼロの道筋は、[6]2022 年にその道筋が発表された 5 セクターの 2030 年の目標に沿っています。石油・ガスセクターにおける融資対象の排出量は、目標の 75%減に対して 63%減となりました[7]。電力セクターの融資対象の排出原単位は[8]17%減（目標は 58%減）、自動車セクターは 13%減（目標は 50%減）、商業不動産セクターは 5%減（目標は 40%減）、セメントセクターは 3%増（目標は 20%減）となりました。この小規模ポートフォリオ（顧客数 10 社未満） では、比較的炭素集約度の低い顧客の一部が退出したため、必然的にポートフォリオの排出原単位が上昇しましたが、これはこのセクターや当行の行動の現状を反映していません。

当グループは、新たな化石燃料採掘プロジェクトに対する融資を停止することにも取り組んでいます。当グループが現在も関わっている化石燃料採掘プロジェクト融資の直接エクスポージャーの総額は[9]、2023 年 12 月末時点で 10 億 6,000 万ドルで、2020 年以降 23%減少しています。

当グループの業績

2024 年度第 1 四半期には、クレディ・アグリコル・グループの**表示純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 1 四半期比 42.8%増（SRF を除いた場合、6.1%増）の **23 億 8,400 万ユーロ**となりました。

2023 年度第 1 四半期には**特殊要因が**、クレディ・アグリコル・グループの**純利益グループ帰属分**に **100 万ユーロのマイナスの影響**を与えました。これには、DVA (Debt Valuation Adjustment)、FVA（Funding Valuation Adjustmen）の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における資本市場と投資銀行業務の担保付き融資に係る 400 万ユーロ増、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 100 万ユーロ増など、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれます。これらの経常的な会計項目に加えて、当四半期に固有の項目が多数ありました。すなわち、地域銀行部門の純利益グループ帰属分の住宅購入貯蓄引当金の戻入による 3,000 万ユーロ増、コーポレート・センターの純利益グループ帰属分の 100 万ユーロ増、大口顧客部門の純利益グループ帰属分の ISB 統合費用による 1,000 万ユーロ減、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分のウクライナ・リスク引当金の追加計上による 2,000 万ユーロ減、プライベート・バンキング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam の買収費用による 600 万ユーロ減です。

これらの特殊要因を除いた**クレディ・アグリコル・グループの基礎純利益グループ帰属分**[10]は、2023 年度第 1 四半期に比べて 40.8%増加（SRF を除くと、5.0%増加）し、**23 億 8,300 万ユーロ**となりました。

---

[4] *2023 年 11 月に公表されたグループ・グリーンボンド・フレームワークの適格基準に沿った CACIB グリーン資産ポートフォリオ*
[5] *電気自動車またはハイブリッド車*
[6] *基準年：2020 年（基準年が 2019 年である航空セクターを除く）*
[7] *2022 年に発表された 2030 年までの石油・ガスセクターの 30%減の当初コミットメントは 2023 年に 75%減に修正*
[8] *範囲：クレディ・アグリコル CIB と Unifergie（Crédit Agricole Transitions & Energies）*
[9] *輸出信用ヘッジの総額*
[10] *特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。*

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

クレディ・アグリコル・グループ ー 表示実績と基礎的実績（2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期）

€m	Q1-24 stated	Specific items	Q1-24 underlying	Q1-23 stated	Specific items	Q1-23 underlying	Δ Q1/Q1 stated	Δ Q1/Q1 underlying
Revenues	**9,525**	**50**	**9,475**	**8,927**	**(32)**	**8,959**	+6.7%	+5.8%
Operating expenses excl.SRF	(5,589)	(20)	(5,569)	(5,284)	-	(5,284)	+5.8%	+5.4%
SRF	-	-	-	(626)	-	(626)	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	**3,936**	**30**	**3,906**	**3,018**	**(32)**	**3,049**	**+30.4%**	**+28.1%**
Cost of risk	(651)	(20)	(631)	(548)	-	(548)	+18.9%	+15.2%
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Equity-accounted entities	68	-	68	108	-	108	(36.7%)	(36.7%)
Net income on other assets	(7)	(8)	2	4	-	4	n.m.	(63.2%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**3,347**	**2**	**3,345**	**2,581**	**(32)**	**2,613**	**+29.6%**	**+28.0%**
Tax	(755)	(6)	(749)	(711)	8	(719)	+6.2%	+4.2%
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	2	-	2	(100.0%)	(100.0%)
Net income	**2,592**	**(4)**	**2,595**	**1,872**	**(24)**	**1,896**	**+38.4%**	**+36.9%**
Non controlling interests	(208)	5	(212)	(204)	-	(204)	+2.1%	+4.3%
Net income Group Share	**2,384**	**1**	**2,383**	**1,669**	**(24)**	**1,692**	**+42.8%**	**+40.8%**
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	**58.7%**		**58.8%**	**59.2%**		**59.0%**	**-0.5 pp**	**-0.2 pp**

2024 年度第 1 四半期の**基礎収益**はすべての事業ラインの好業績が原動力となり、前年同期に比べて 5.8%増の 94 億 7,500 万ユーロとなりました。収益はすべての中核事業で増加しました。これは、アセット・ギャザリング部門の力強い活動やプラスの市場効果、大口顧客部門の法人営業及び投資銀行の記録的な水準の業績、ISB の CACEIS[11]への統合による初期の相乗効果、CA オートバンク[12]の専門金融サービス部門への統合、リテール・バンキング部門における手数料収入の勢いと純金利マージンの国際的な上昇、コーポレート・センターにおける Banco BPM の証券評価のプラスの効果によるものです。2024 年第 1 四半期の**基礎営業費用**は、5.4%増 (SRF を除く) の 55 億 6,900 万ユーロとなりました。これは、インフレ環境下での人件費の増加と IT 投資に加え、特に RBC IS Europe[13]と CA オートバンク[14]の統合による連結範囲変更の影響によるものです。全体として、当グループの**基礎コスト比率**は 2024 年度第 1 四半期に 58.8%となり、0.2 パーセント・ポイント（SRF を除く）改善しました。2023 年度第 1 四半期の SRF 拠出額は 6 億 2,600 万ユーロでした。**基礎営業総利益**は 39 億 600 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期に比べて 28.1%増、SRF 費用調整後で 6.3%増となりました。

基礎信用リスク関連費用は 6 億 3,100 万ユーロで、第 1 四半期に比べて 15.2%増加しました。これには正常債権（レベル 1 及び 2）に関する戻入れ（+5,800 万ユーロ）、確認済リスク（レベル 3）に関する費用の追加（ - 6 億 9,000 万ユーロ）、その他のリスクに関する戻入れ（ - 100 万ユーロ）が含まれます。引当水準は、過去の四半期と同様にいくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに調整を加えることによって決定されました。2024 年第 1 四半期の経済シナリオは、前四半期と同じです。**残高に対するリスク関連費用[15]は、ローリング四半期で 25 ベーシス・ポイントとなり、中期計画の想定の 25 ベーシス・ポイントとほぼ一致する水準となっています。**
年換算の四半期ベースでは 21 ベーシス・ポイントです[16]。

---

[11] *ISB による連結範囲変更の収益への影響は 2024 年第 1 四半期に+1 億 800 万ユーロ*
[12] *CA オートバンクによる連結範囲変更の収益への影響は 2024 年第 1 四半期に+1 億 8,300 万ユーロ*
[13] *ISB による連結範囲変更の費用への影響は 2024 年第 1 四半期に+1 億 300 万ユーロ*
[14] *CA オートバンクによる連結範囲変更の費用への影響は 2024 年第 1 四半期に+7,000 万ユーロ*
[15] *ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。*
[16] *年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。*

税引前基礎利益は、前年比 28.0%増の 33 **億 4,500 万ユーロ**でした。税引前基礎利益には、持分法適用会社の寄与 6,800 万ユーロ（36.7%減、FCA バンク（現在は完全連結）の持分法適用会社の適用範囲からの除外などによるもの）やその他の資産からの純利益（当四半期 200 万ユーロ）が含まれています。基礎**税金費用は当期、4.2%増加**し、税率は 5.8 パーセント・ポイント減の 22.9%となりました。税率の低下は、控除対象外であった SRF 費用が当四半期に消失したためです。非支配持分控除前の基礎純利益は 36.9%増加して 25 億 9,500 万ユーロとなりました。非支配持分は 4.3%増加しました。最後に、**基礎純利益グループ帰属分は**、2023 年度第 1 四半期から **40.8%増の 23 億 8,300 万ユーロでした**。

地域銀行

年初来の**総顧客獲得**数は 30 万 6,000 人増、**顧客基盤**は 2 万 9,000 人増となりました。**当座預金をメイン口座として利用している顧客の割合**は、前年同期に比べて 0.5 パーセント・ポイント増加し 76.3%となりました。 **デジタルツールを利用する顧客の割合は** 76.8%[17]（2023 年 3 月末比 1.9 パーセント・ポイント増）に**増加し**、オンライン署名件数[18]は 2023 年度第 1 四半期から 2024 年度第 1 四半期までに 15%増加しました。

当四半期には、**ローン組成**は 2023 年度第 1 四半期比で 32.4%**減少**しました。住宅ローンは大幅に減少している（2023 年度第 1 四半期比で 44.6%減）ものの、市場全体が減速する状況にあります[19]。1 月および 2 月の住宅ローンの貸出金利は[20]3.85%で、2023 年第 4 四半期から 20 ベーシス・ポイント上昇した。2024 年 3 月末の**貸付残高**は、法人向け市場（2023 年 3 月比で 4.2%増）を原動力として、2023 年 3 月末比で 1.1%増加し、6,440 億ユーロになりました。

2024 年 3 月末時点の**総顧客資産**は、前年同期比 3.7%増の 8,931 億ユーロとなりました。この原動力となったのは、オン・バランスシートの預金（2024 年 3 月末時点で前年同期比 3.3%増（うち、預金通帳口座は 4.5%増、定期預金は 80.4%増)の 5,955 億ユーロ）とオフ・バランスシートの預金（前年同期比 4.6%増の 2,976 億ユーロ）です。

2024 年 3 月末の**損害保険**のクロスセル・レートは 43.4%となり、引き続き上昇しました（2023 年と比べて 0.5 パーセント・ポイント上昇）。**支払手段**では、カード枚数が前年同期比 1.5%増加し、プレミアムカードの割合が前年同期比 1.4 パーセント・ポイント増加しカード全体の 15.2%を占めました。

SAS Rue LaBoétie の配当を含む 2024 年度第 1 四半期の地域銀行の連結収益[21]は、純利鞘が 17.6%低下したことから、前年同期に比べて 1.0%減の 32 億 9,500 万ユーロになりました。ポートフォリオ収益が増加し、手数料収入も増加し、なかでも支払手段の手数料収入は 7.6%増加しました。SAS Rue LaBoétie の配当金を含む地域銀行の連結収益は、2023 年度第 4 四半期と比べて 2.2%増加しました。

営業費用は 2.8%減少しました。SRF を除いた営業費用は[22]、人件費の増加と IT 関連費用によりやや増加しました。**営業総利益**は 5.0%増加しましたが、SRF を除いた営業総利益は 8.2%減少しました。**リスク関連費用**は 2023 年度第 1 四半期比で 46.3%**増加し**、2 億 4,700 万ユーロとなりました。このデフォルト率の上昇は、各企業の申請の影響などによるものです。

SAS Rue LaBoétie の配当[23]を含む 2024 年度第 1 四半期の地域銀行の**連結純利益**は、2023 年度第 1 四半期比で安定し、4 億 3,900 万ユーロになりました。

2024 年度第 1 四半期の**地域銀行の純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 1 四半期比 5.1%増の 4 億 4,200 万ユーロでした。

---

[17] *Ma Banque アプリでアクティブなプロフィールを持っているか、その月に CAEL にアクセスした顧客の数の、アクティブな要求払預金口座を持っている成人顧客の数に対する割合*

[18] *BAM デポジット・モード（マルチチャネルの銀行アクセス）、モバイル・カスタマー・ポータル、または「Ma Banque」アプリで開始された署名*

[19] *フランスの住宅ローン組成はフランス銀行によると、2024 年 1 月、2 月に前年同期比 36%減*

[20] *月間実績の金利。ユーロ建ての固定金利の満期ローンのみを考慮*

[21] *SAS Rue La Boétie の年間配当は第 2 四半期に支払われます。*

[22] *2023 年の SRF は 1 億 1,300 万ユーロでした。*

[23] *SAS Rue La Boétie の年間配当は第 2 四半期に支払われます。*

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

クレディ・アグリコル S.A.

業績

2024 年度第 1 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2024 年 5 月 2 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A. ー 表示実績と基礎的実績（2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期）

€m	Q1-24 stated	Specific items	Q1-24 underlying	Q1-23 stated	Specific items	Q1-23 underlying	Δ Q1/Q1 stated	Δ Q1/Q1 underlying
Revenues	**6,806**	**9**	**6,797**	**6,121**	**(32)**	**6,153**	**+11.2%**	**+10.5%**
Operating expenses excl.SRF	(3,669)	(20)	(3,649)	(3,328)	-	(3,328)	+10.2%	+9.6%
SRF	-	-	-	(513)	-	(513)	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	**3,137**	**(11)**	**3,148**	**2,280**	**(32)**	**2,312**	**+37.6%**	**+36.1%**
Cost of risk	(400)	(20)	(380)	(374)	-	(374)	+6.9%	+1.6%
Equity-accounted entities	43	-	43	86	-	86	(50.4%)	(50.4%)
Net income on other assets	(6)	(8)	2	4	-	4	n.m.	(58.5%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**2,773**	**(39)**	**2,812**	**1,996**	**(32)**	**2,028**	**+38.9%**	**+38.7%**
Tax	(610)	5	(615)	(521)	8	(530)	+17.1%	+16.2%
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	2	-	2	n.m.	n.m.
Net income	**2,163**	**(34)**	**2,197**	**1,476**	**(24)**	**1,500**	**+46.5%**	**+46.5%**
Non controlling interests	(259)	5	(264)	(250)	1	(251)	+3.7%	+5.3%
Net income Group Share	**1,903**	**(30)**	**1,933**	**1,226**	**(23)**	**1,249**	**+55.2%**	**+54.7%**
Earnings per share (€)	**0.50**	**(0.01)**	**0.51**	**0.36**	**(0.01)**	**0.37**	**+40.2%**	**+40.0%**
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	**53.9%**		**53.7%**	**54.4%**		**54.1%**	**-0.5 pp**	**-0.4 pp**

2024 年第 1 四半期には、クレディ・アグリコル S.A.の**表示純利益グループ帰属分**は、2023 年第 1 四半期から 55.2%増加し、**19 億 300 万ユーロ**となりました。

当四半期の**特殊要因**は純利益グループ帰属分に 3,000 万ユーロのマイナスの累積影響を及ぼしました。これには、DVA（負債評価調整）、FVA の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における大口顧客部門の担保付き融資に係る 400 万ユーロの利益、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 100 万ユーロの利益など、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれました。これらの経常的な会計項目に加えて、当四半期に固有の項目が多数ありました。すなわち、、LCL の純利益グループ帰属分における住宅購入貯蓄引当金の戻入による 100 万ユーロ増、大口顧客部門の純利益グループ帰属分の ISB 統合費用による 1,000 万ユーロ減、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分のウクライナ・リスク引当金の追加計上による 2,000 万ユーロ減、プライベート・バンキング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam の買収費用による 600 万ユーロ減です。

特殊要因を除くと、2024 年第 1 四半期の**基礎純利益グループ帰属分**[24]は **19 億 3,300 万ユーロ**となりました（2023 年第 1 四半期と比べ 54.7%増）。

2024 年度第 1 四半期の**基礎収益**は 67 億 9,700 万ユーロに達し、2023 年度第 1 四半期比で 10.5%急増しました。この増加は、すべての事業ラインが原動力となりました。アセット・ギャザリング部門は力強い活動とプラスの市場効果の恩恵を受けました。大口顧客部門は、ISB の CACEIS への統合[25]と当初のシナジーの創出に加えて、法人営業及

[24] 特殊要因を除く、基礎的項目。
[25] ISB による連結範囲変更の収益への影響:2024 年第 1 四半期に+1 億 800 万ユーロ

び投資銀行から記録的水準の収益を上げました。CA オートバンクの統合により、専門金融サービス部門は恩恵を受けました。[26]フランスのリテール・バンキング部門は、手数料収入の伸びに牽引されました。最後に、国際リテールバンキング部門は純金利マージンの伸びに牽引されました。コーポレート・センター部門は、Banco BPM の有価証券の評価などにより収益が増加しました。

2024年第 1 四半期の**基礎営業費用**は 36 億 4,900 万ユーロで、2023 年第 1 四半期比で SRF を除いて 9.6%増加しました。乖離効果（SRF を除く）は 0.8 パーセント・ポイントのプラスとなりました。費用は前年比 3 億 2,100 万ユーロ増加しましたが、これは連結範囲変更の影響による 1 億 7,300 万ユーロ増[27]、インフレを背景とした人件費の 9,200 万ユーロ増、IT 投資の 4,700 万ユーロ増などによるものです。連結範囲変更の影響を除いた基礎的費用は 4.4%増加しました（SRF を除く）。

その結果、2024 年度第 1 四半期の**基礎コスト比率**は、前年同期比で 0.4 パーセント・ポイント低下し、53.7%となりました（SRF を除く）。

2024 年度第 1 四半期の基礎**営業総利益**は 31 億 4,800 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期比 36.1%増と急増しました。2023 年第 1 四半期に計上された SRF 費用は 5 億 1,300 万ユーロでした。したがって、SRF の修正再表示後の基礎営業総利益は 11.4%増となりました。

2024 年 3 月 31 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の 26%）と法人向け（クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の 42%）に重点が置かれています。不良債権比率は 2.6%と低水準で安定して推移しました。不良債権引当率[28]は前期比で 1.1 パーセント・ポイント低下し、69.7%と高い水準になりました。クレディ・アグリコル S.A.の**貸倒引当金**は 96 億ユーロで、2023 年 12 月末からほぼ横ばいでした。これらの貸倒引当金のうち、35%は正常債権に対するものでした (割合は過去四半期並み) 。

基礎**リスク関連費用**は 3 億 8,000 万ユーロ増加し、2023 年第 1 四半期の 3 億 7,400 万ユーロと比べて 1.6%増と小幅増加しました。2024 年度第 1 四半期の当該費用 3 億 8,000 万ユーロの内訳は、正常債権（ステージ 1 及び 2）に対する引当の少額戻入 800 万ユーロ（2023 年度第 1 四半期は 7,500 万ユーロの引当）、確認済みリスク（ステージ 3）に対する引当 3 億 8,400 万ユーロ（2023 年度第 1 四半期は 2 億 8,400 万ユーロ）、その他の項目の引当 500 万ユーロでした。事業ライン別では、2024 年度第 1 四半期の引当について、専門金融サービス部門が 58% (2023 年第 1 四半期は 42%)、LCL 部門が 31% (2023 年第 1 四半期は 18%)、国際リテール・バンキング部門が 16% (2023 年第 1 四半期は 30%) を占めました。引当水準は、過去の四半期と同様にいくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに調整を加えることによって決定されました。2024 年第 1 四半期の経済シナリオは、前四半期と同じです。2024 年度第 1 四半期には、残高に対するリスク関連費用はローリング 4 四半期ベースで[29]33 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベースで 29 ベーシス・ポイントでした[30]。

2024 年第 1 四半期における**持分法適用企業**の基礎寄与は 4,300 万ユーロで、FCA バンクが持分法適用企業が除外されたことに伴い、2023 年第 1 四半期から 50.4%減少しました。2024 年第 1 四半期の**その他の資産からの純利益**は 200 万ユーロになりました。

非継続事業と非支配持分控除前の**税引前[31]基礎利益**は 38.7%増加して 28 億 1,200 万ユーロとなりました。**基礎的実効税率**は 22.2%となり、2023 年第 1 四半期と比較して 5.1 パーセント・ポイント低下しました。これは、2024 年第 1 四半期に課税控除費用ではない SRF が消失したことを反映しています。基礎的税金費用は 6 億 1,500 万ユーロで、16.2%増加しました。その結果、**非支配持分控除前の基礎純利益**は 46.5%増加して 21 億 9,700 万ユーロとなりました。**非支配持分**は 2024 年度第 1 四半期には 5.3%増加して 2 億 6,400 万ユーロとなりました。

その結果、**基礎純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 1 四半期比 54.7%増の 19 億 3,300 万ユーロとなりました。SRF 調整後の**基礎純利益グループ帰属分**は前年同期比 13.5%増加しました。

---

[26] *CA オートバンクによる連結範囲変更の収益への影響 :2024 年第 1 四半期に+1 億 8,300 万ユーロ*

[27] *2024 年第 1 四半期の費用への連結範囲変更の影響 :ISB が+1 億 300 万ユーロ、CA オートバンクが+7,000 万ユーロ*

[28] *ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率。*

[29] *ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。*

[30] *年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。*

[31] *特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。*

2024 年度第 1 四半期の **1 株当たり基礎的利益**は、前年同期と比べ 40.0%増加して、**0.51 ユーロ**に達しました。

基礎 RoTE[32]は、基礎純利益グループ帰属分の年換算額[33]及び線形化で年換算された IFRIC の下での費用に基づいて算出されており、年換算後のその他 Tier 1 債券のクーポンを控除して算出され（無形資産を除いたグループ帰属株主資本利益率）、また償還 AT1 債への為替の影響を控除して算出され、資本で認識されている特定の変動の大きい項目について修正再表示され（含み損益を含む）、**2024 年度第 1 四半期には 16.3%**となり、2023 年第 1 四半期と比べて 1.9 パーセント・ポイント上昇しました。

クレディ・アグリコル S.A.は、2024 年度第 1 四半期の決算後、中期目標 2025 計画よりも 1 年早く、2024 年の業績見通しを開示しました。2024 年の**基礎純利益グループ帰属分**は 60 億ユーロを上回っています。

この業績見通しは、好調な事業モメンタム(顧客獲得、クロスセル・レートの上昇、オフ・バランスシートの預金)が継続し、それに伴い、手数料収入と保険収入が増加することを前提としています。最近の買収の統合は、アセット・サービシング部門（RBC の欧州事業と CACEIS インベスター・サービス・バンク（ISB）の統合）、ウェルス・マネジメント（Degroof Petercam の買収に関する作業継続）、及びアセット・マネジメント（2024 年 4 月 2 日のアムンディによる Alpha Associates の買収完了）における増益と補完的シナジーの源泉となっています。モビリティ事業への移行は、専門金融サービス部門の戦略転換です。大口顧客部門では、法人営業及び投資銀行部門が、シンジケート・ローンで主導的な地位、また債券発行で有利な地位を確立しています。最後に、低水準のコスト比率と健全なバランスシートを伴う構造的な営業効率が、業績見通しを支えるでしょう。

この業績見通しには、フランスのリテール・バンキングや消費者クレジット事業の利鞘が引き続き圧縮されていること、CA イタリアの純利鞘の上限設定、進行中の買収に関する 2024 年の統合コスト（Degroof Petercam については最大 5,000 万ユーロ、ISB については:8,000 万ユーロから 1 億ユーロ）などの逆風も織り込まれています。

---

[32] *RoTE (有形株主資本利益率) の計算の詳細については、添付資料を参照してください。*

[33] *年換算後の基礎純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正することによって、基礎純利益グループ帰属分の年換算（第 1 四半期 X 4、上半期 X 2、9 ヶ月累計期間 X 4/3）したものに相当します。*

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門の活動

2024 年第 1 四半期のアセット・ギャザリング（AG） 部門の運用資産は、プラスの市場効果に加えて、アセット・マネジメント、保険、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインから 192 億ユーロの純資金流入により、2023 年 12 月末と比べて 3.6%増加し、2 兆 6,480 億ユーロ[34]となりました。前年同期比では、運用資産は 8.4%増加しました。

保険事業（クレディ・アグリコル・アシュアランス）は、2024 年第 1 四半期に記録的な水準に達し、2024 年 3 月末の総保険料収入は、貯蓄・退職保険、損害保険、死亡・高度障害・債権者・団体保険の 3 分野すべてで増加し、2023 年 3 月と比べて 5.2%増加して 123 億ユーロとなりました。

貯蓄・退職保険部門では、総流入額が前年比 4.3%増加し、過去最高の 86 億ユーロに達しました。これは、第 1 四半期に開始された預金ボーナス・キャンペーンに加えて、イタリアとルクセンブルクの事業が回復し、ユーロの総流入額を押し上げたことによるものです。総流入額に占めるユニット・リンク型商品の比率は 39.1%で、2023 年第 1 四半期に比べて 6.7 パーセント・ポイント低下しました。比率の低下は、ユーロの総流入額の回復とユニット・リンク型商品の市場環境の悪化、特にユニット・リンク型定額受取商品の魅力の低下に関連しています。当四半期の純流入額は、普通口座からの流出額の減少などにより、大幅に改善し、10 億ユーロに達しました。純流入額はユニット・リンク型商品で 15 億ユーロのプラス、普通口座で 5 億ユーロのマイナスでした。**生命保険の運用資産**（貯蓄・退職金・葬儀保険）は総額 3,349 億ユーロ（前年同期比 103 億ユーロ増、3.2%増）(2023 年 12 月末比で 45 億ユーロ増、1.4%増)に達しました。生命保険の運用資産を牽引したのは、純資金流入に加え、プラスの市場効果でした。運用資産に占めるユニット・リンク型商品の割合は 29.5%と記録的な水準に達し、前年比 2.3 パーセント・ポイント上昇し、2023 年 12 月末比 0.6 パーセント・ポイント上昇しました。

損害保険事業は活発であり、2024 年第 1 四半期の保険料収入は 24 億ユーロと、2023 年第 1 四半期と比べて 7.9%増加しました。この伸びは数量と価格の効果によるものでした。実際、2024 年 3 月末時点で、ポートフォリオの件数は 1,600 万件となり[35]、前年比で 3.4%増となりました。また、平均保険料は、商品構成の変化に加え、料率改定の効果もあって増加しています。コンバインドレシオは、天候関連の保険金請求が安定的に推移するなか、割引の効果もあり、前年比で 0.9 パーセント・ポイント減とやや改善して、93.8%[36]となりました。

死亡・高度障害、債権者保険及び団体保険では、2024 年度第 1 四半期の保険料収入は 13 億ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期から 6.0%増加しました。債権者保険の保険料収入は、(ローン組成の減少による) 新規案件の減少にもかかわらず、底堅く推移しました（0.1%減）。個人死亡・高度障害保険と団体保険は、2023 年度第 1 四半期から、15.2%と 21.8%とそれぞれ大幅に増加しました。

資産運用（アムンディ）は、2024 年第 1 四半期の資金流入が非常に良好でした。資金流入額は 166 億ユーロと高水準で、顧客セグメント別[37]、運用タイプ別[38]、地理別でも均衡していました。アムンディはアクティブ運用の資金流入で、欧州の資産運用市場から一線を画しています。

運用資産は 2024 年 3 月末時点で 2 兆 1,160 億ユーロの高水準に達し、2023 年 12 月 31 日比 3.9%増加し、前年同期比 9.4%増加しました。この数字には 630 億ユーロのプラスの市場および為替効果が含まれています。

リテールの資金流入（2024 年第 1 四半期は 65 億ユーロ）は、パッシブ運用とマネーマーケット運用に牽引されたサードパーティ・ディストリビューターの好成績（70 億ユーロ）とトレジャリー商品によるフランスのネットワークからの資金流入の継続（15 億ユーロ）により増加し、国際ネットワーク（特にイタリア）からの資金流出を相殺しました。

機関投資家セグメントは、2024 年第 1 四半期に 56 億ユーロの資金流入となりました。従業員貯蓄制度での季節的な資金流出やユーロ建て保険からの撤退が続きましたが、現物商品 (39 億ユーロ) と中長期資産 (17 億ユーロ増) が資金流入を牽引しました。

---

34 機関投資家顧客のカストディー資産を除く

35 連結範囲：フランス内外の損害保険

36 割引を含め、割戻を除いた再保険料控除後の P&C（Pacifica）のコンバインドレシオは、保険料収入に対する（保険金+営業費用+手数料）。2024 年第 1 四半期に関して算定しています。2024 年第 1 四半期の割引の効果を除いた純コンバインドレシオは 96.2%（前年比 0.1 パーセント・ポイント減）となりました。

37 リテールから 65 億ユーロ、機関投資家から 56 億ユーロ、ジョイント・ベンチャーから 45 億ユーロ

38 ジョイント・ベンチャーを除くトレジャリー商品で 87 億ユーロ、ジョイント・ベンチャーを除くMLT 資産で 34 億ユーロ

ジョイント・ベンチャーは 45 億ユーロの資金流入となりました。インドと韓国での高成長に牽引され、資金流入はすべての国でプラスとなりました。中国の資金流入は損益分岐点に達しました。

また、4 月 2 日には Alpha Associates の買収を完了し、2024 年 4 月 15 日には米国の Victory Capital との[39]戦略的パートナーシップ覚書を締結するなど、2 件の価値創造取引を行いました。Alpha Associates は第 2 四半期以降に統合される予定で、2024 年 3 月末の資産総額は 90 億ユーロでした。この取引により、アムンディの専門性がさらに強化され、プライベート・アセットのマルチ運用における欧州のリーダーが誕生します。また、Victory Capital と締結した覚書は、アムンディ i が Victory Capital の 26.1%の株式を取得し、相互に 15 年間の国際販売契約を締結することと引き換えに、アムンディの米国事業を Victory Capital と統合することを目的としています。アムンディ US と Victory Capital の合併により、両社の顧客にサービスを提供する、より大規模な米国投資プラットフォームが構築されます。その結果、アムンディはより広範な米国および世界の投資専門知識を顧客に提供できるようになり、Victory Capital は米国外での商品販売を拡大できるようになります。

ウェルス・マネジメントでは、総運用資産（CA インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング）は 2024 年 3 月末現在で 1,970 億ユーロとなり（うち 1,332 億ユーロ[40]はインドスエズ・ウェルス・マネジメント）、2023 年 12 月末から増加しました（67 億ユーロ増、3.5%増）。これには、51 億ユーロのプラスの市場効果（うち 41 億ユーロはインドスエズ・ウェルス・マネジメント）、16 億ユーロのプラスの純資金流入（うち 14 億ユーロはインドスエズ・ウェルス・マネジメントで、引き続きストラクチャード商品の顧客人気が高い）が含まれています。

アセット・ギャザリング部門の業績

AG の 2024 年度第 1 四半期の**収益**は 17 億 8,900 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期に比べて 2.5%増加しました。この増加は、資産運用、保険、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインすべてが好調な収益を上げたことによるものです。**費用**は 5.5%（SRF を除く）増加し、7 億 5,400 万ユーロとなりました。その結果、**コスト比率**は、2023 年第 1 四半期に比べて 1.2 パーセント・ポイント増加し、42.1%（SRF を除く）となりました。2023 年第 1 四半期の SRF への拠出額のコストは 600 万ユーロでした。営業総利益は 10 億 3,500 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比較して 1.0%増、SRF を除くと 0.4%増となりました。税金は 4.5%減少して 2 億 2,000 万ユーロとなりました。AG の**純利益グループ帰属分**は、2023 年第 1 四半期と比べて 2.6%増の 7 億 1,600 万ユーロでした。保険収入の増加（4.1%増）と資産運用収入の増加（5.7%増）が、ウェルス・マネジメント収入の減少（16.2%減）を相殺しました。

2024 年度第 1 四半期には、アセット・ギャザリング部門は、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 35%、コーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 26%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日現在で同部門に配分された資本は 127 億ユーロで、この内訳は、保険が 108 億ユーロ、資産運用が 13 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 6 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 558 億ユーロで、この内訳は、保険が 353 億ユーロ、資産運用が 142 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 63 億ユーロでした。

2024 年度第 1 四半期の**基礎 RoNE**（調整株主資本利益率）は 26.7%でした。

保険事業の業績

2024 年度第 1 四半期の保険事業の**収益**は 7 億 2,200 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期に比べて 1.5%増加しました。保険事業の収益の内訳は、貯蓄・退職金保険が 5 億 500 万ユーロ[41]、個人保障が 1 億 3,100 万ユーロ[42]、損害保険が 1 億 1,300 万ユーロでした[43]。CSM の配分の増加 (残高の増加と好調な事業モメンタムに関連) と前年の個人保障の解除は、金融収入の減少により一部相殺されました[44]。CSM は 239 億ユーロで、好調な市場環境に伴う新規事業の寄与により、2023 年 12 月 31 日 (0.2%増) からわずかに増加しました。

---

[39] *法的拘束力無し*
[40] *機関投資家顧客のカストディー資産を除く*
[41] *葬儀保証を含む契約上のサービスマージン (CSM) とリスク調整（RA）の配分額*
[42] *CSM とRA の配分額*
[43] *再保険費用控除後（業績を除く）*
[44] *2023 年 1 月 1 日の IFRS 第 17 号への移行に関連した投資に関する経営判断の実施に関連するベース効果、すなわち、持分の分離とポートフォリオのリスク低減*

営業総利益は、(2024 年に設立された)イタリアの保険会社の保証基金の設置により、帰属不能の費用が増加したものの、6 億 3,100 万ユーロとなり、2023 年第 1 四半期比で横ばい(0.2%増)になりました。コスト比率は 1.2 パーセント・ポイント上昇して 12.7%となり、中期経営計画で設定されている目標上限の 15%を下回りました。税金費用はプラスの税効果により 1 億 2,300 万ユーロとなり、2023 年第 1 四半期比で 10.8%減少しました。その結果、**純利益グループ帰属分**は、2023 年第 1 四半期に比べて 4.1%増の 4 億 9,400 万ユーロとなりました。

保険は、2024 年 3 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 24%に寄与し、また基礎収益の 10%に寄与しました。

資産運用の業績

2024 年度第 1 四半期の**収益**は 8 億 400 万ユーロとなりました。資金流入の商品構成が好ましくないにもかかわらず、運用報酬・手数料収入(4.0%増)が牽引し、収益は 2023 年第 1 四半期比で 3.9%増加しました。2023 年第 1 四半期比でテクノロジーの収益は 36%増加、純金融収入は 43%増加し、成功報酬と手数料収入の減少(1,800 万ユーロ)を相殺しました。営業**費用**はアムンディ・テクノロジーの開発投資の加速を反映して、SRF を除いて、4.3%増の 4 億 4,900 万ユーロになりました。この結果、**コスト比率**は 55.8%と前年同期並み(SRF を除くと 0.2 パーセント・ポイント増)となりました。2023 年第 1 四半期の SRF 費用は 300 万ユーロでした。**営業総利益**は 2023 年度第 1 四半期比で 4.5%増加し、SRF を除くと 3.5%増加しました。アムンディのジョイント・ベンチャーからの貢献で構成される持分法適用会社の寄与は、2023 年度第 1 四半期から 30.4%増加して 2,900 万ユーロとなりました。これはインドの SBI MF の寄与の大幅な拡大などが牽引しました。税金費用は 6.5%増加し、8,800 万ユーロとなりました。全体として**純利益グループ帰属分**は、2023 年第 1 四半期比 5.7%増の 1 億 9,700 万ユーロでした。

資産運用は、2024 年 3 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業(コーポレート・センター部門を除く)の基礎純利益グループ帰属分の 10%に寄与し、基礎収益の 12%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日時点で、資産運用に配分された資本は 13 億ユーロ、リスク・ウェイト資産は合計 142 億ユーロになりました。

ウェルス・マネジメントの業績[45]

ウェルス・マネジメントの 2024 年度第 1 四半期の**収益**は 2 億 6,400 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期に比べて 1.1%増加しました。運用・取引手数料収入の好調に支えられ、ウェルス・マネジメントの四半期収益としては過去最高となりました。**費用**は 2 億 1,400 万ユーロで、2023 年第 1 四半期に比べて 5.6%増加しました (SRF を除く) 。これは人件費の増加などによるもので、その一部は非経常的費用でした。また、為替の影響を除いた営業費用は 3.9%増加しました。この結果、2024 年第 1 四半期の**コスト比率**は 81.2%となり、2023 年第 1 四半期と比べて 3.4 パーセント・ポイント(SRF を除く)上昇しました。2023 年度第 1 四半期の SRF 費用は 300 万ユーロでした。営業総利益は 5,000 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比較して 10.2%減、SRF を除くと 14.4%減となりました。2024 年第 1 四半期のその他資産の純利益はマイナス 800 万ユーロで、これは Degroof Petercam の買収費用に相当し、個別項目として再表示されています。**純利益グループ帰属分**は、2023 年第 1 四半期と比べて 31.9%減の 2,500 万ユーロとなりました。

ウェルス・マネジメントは、2024 年 3 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門の基礎純利益グループ帰属分(コーポレート・センター部門を除く)の 1%に寄与し、基礎収益の 4%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日現在、ウェルス・マネジメントに配分された資本は 6 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 63 億ユーロでした。

Degroof Petercam の買収は 2024 年半ばに完了する見込みです。この買収により、2028 年には約 1 億 5,000 万ユーロから 2 億ユーロのシナジー効果後、純利益グループ帰属分の増加が見込まれます。2024 年の買収関連および統合コストは総額 5,000 万ユーロと見込まれ、2024 年第 1 四半期には 800 万ユーロのコストが計上されました。

大口顧客部門の活動

[45] *インドスエズ・ウェルス・マネジメントの連結範囲*

法人営業及び投資銀行部門（CIB）の全体の活動は、2024 年度第 1 四半期に記録的な業績を残しました。**資産運用サービス事業**も当四半期、好調に推移しました。

CIB の第 1 四半期の基礎収益は 17 億 5,100 万ユーロに急増し、2023 年度第 1 四半期比 1.6%の増加となりました。この増加の原動力となったのはファイナンス事業の好調な業績によるもので、収益は 2023 年第 1 四半期比 6.3%増の 8 億 3,200 万ユーロとなりました。主な原動力となったのは、国際貿易・取引銀行業務（特にキャッシュ・マネジメント）と法人レバレッジ・ファイナンス事業の発展を牽引役とする商業銀行事業の好調な業績（2023 年度第 1 四半期比で 10.1%増）でした。加えて、ストラクチャード・ファイナンス事業は 2023 年第 1 四半期と比べて横ばいで推移しました。

資本市場及び投資銀行業務の収益は合計 9 億 1,900 万ユーロとなり、高収益であった 2023 年度第 1 四半期に比べて 2.3%減少しました。FICC の業績は好調（ - 3%）で、市場シェアはプライマリー・クレジットおよび証券化業務が原動力となり拡大しています。投資銀行業務は堅調に推移し、ストラクチャードエクイティが原動力となり、基礎収益は 1.4%増加しました。

よって、ファイナンス事業はシンジケート・ローンにおける主導的地位を確認しました (フランスで第 2 位[46]、EMEA46 で第 2 位) 。クレディ・アグリコル CIB は、債券発行における高い**地位**を再確認し（世界全体のすべてのユーロ建債で第 4 位 [46]）、ユーロ建てグリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナブルボンドで第 5 位となりました。[47]2024 年第 1 四半期の規制上の **VaR** の平均は 1,150 万ユーロで、ポジションと金融市場の変動を反映して、2023 年第 4 四半期の 1,320 万ユーロから減少しました。慎重なリスク管理を反映した水準で推移しました。

さらに、2024 年は、RBC インベスター・サービシズ（現 CACEIS インベスター・サービシズ・バンク（ISB））の**資産運用サービス**（CACEIS）への統合が、2024 年第 2 四半期に予定されている法人の実質的な合併と年内の顧客ポートフォリオの移行などを通じて、引き続きを進められます。ISB の統合コストは年間で約 8,000 万ユーロから 1 億ユーロ計上され、そのうち 2,000 万ユーロは 2024 年第 1 四半期に計上されます。

2024 年第 1 四半期は、堅調な顧客事業と市場の上昇により、前四半期および前年同期に比べて資産が大幅に増加しました。その結果、2024 年 3 月末時点の**カストディー資産**は 2023 年 12 月末に比べて 6.3%増、2023 年 3 月末に比べて 19.4%増の 5 兆 150 億ユーロとなり、うち 2,700 億ユーロは ISB の資産でした。**管理資産**は 2024 年 3 月末時点で、2023 年 12 月末に比べて 3.5%増、2023 年 3 月末に比べて 54.1%増の 3 兆 4,150 億ユーロとなり、このうち 9,830 億ユーロは ISB が寄与しました。

大口顧客部門の業績

2024 年度第 1 四半期には、法人営業及び投資銀行部門及び資産運用サービス部門の好調な業績により、大口顧客部門の表示**収益**は 22 億 6,600 万ユーロと記録的な水準に達し、2023 年度第 1 四半期比で 10.5%増加しました。同部門の当四半期の特殊要因は、ファイナンス事業に 700 万ユーロの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）が 500 万ユーロ、ローンブックのヘッジが 200 万ユーロでした。**営業費用**は、変動報酬と開発を支援するための IT 投資、それに ISB の連結範囲変更の影響 (1 億 300 万ユーロ) により、2023 年第 1 四半期から増加しました (SRF を除くと 15.7%増) 。また、ISB の統合費用 2,000 万ユーロを計上し、個別項目として修正再表示しています。その結果、同部門の**営業総利益**は、2023 年第 1 四半期に比べて 57.2%増と大幅に増加し、9 億 6,900 万ユーロとなりました（SRF を除くと 4.2%増（2023 年第 1 四半期の SRF は 3 億 1,400 万ユーロ））。2024 年第 1 四半期の同事業部門のリスク関連費用は、2023 年第 1 四半期の 3,600 万ユーロの純繰入に対して、3,300 万ユーロの純戻入となりました。税引前の表示利益は 10 億 600 万ユーロとなり、当期中に大幅に増加しました（70.8%増）。税金費用は 2 億 3,500 万ユーロでした。最後に、2024 年度第 1 四半期の表示**純利益グループ帰属分**は 7 億 2,200 万ユーロに達しました。これに対し、2023 年度第 1 四半期の表示利益は 3 億 7,600 万ユーロでした。2024 年度第 1 四半期の基礎純利益グループ帰属分は 7 億 2,700 万ユーロとなりました（2023 年第 1 四半期は 3 億 9,900 万ユーロ）。

同部門は、2024 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 36%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 33%に寄与しています。

---

[46] *リフィニティブ*
[47] *ブルームバーグ*

2024 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は 133 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 1,396 億ユーロでした。

2024 年 3 月末時点で、基礎 **RoNE（調整株主資本利益率）**は 22.2%になりました。

法人営業及び投資銀行部門の業績

2024 年度第 1 四半期には、法人営業及び投資銀行部門では、すべての事業分野が好調に推移し、**表示収益**は 2023 年度第 1 四半期から 4.0%増加して過去最高の 17 億 5,800 万ユーロに達しました。法人営業及び投資銀行部門の当四半期の特殊要因は、ファイナンス事業に 700 万ユーロの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）が 500 万ユーロ、ローンブックのヘッジが 200 万ユーロでした。**営業費用**は 4.4%増加し（SRF を除く）、9 億 2,300 万ユーロとなりました。これは、業績連動型の変動報酬と IT 投資によるものでした。**営業総利益**は、2023 年第 1 四半期に比べて 55.4%増と大幅に増加し、8 億 3,500 万ユーロとなりました（SRF を除くと 3.5%増（2023 年第 1 四半期の SRF は 2 億 7,000 万ユーロ））。コスト比率は 52.5%となり、前四半期比 0.2 パーセント・ポイント（SRF を除く）上昇しました。**リスク関連費用**は、合成証券化に関連した 5,600 万ユーロの戻入の影響で、3,700 万ユーロの純戻入となりました（2023 年第 1 四半期は 3,600 万ユーロの繰入）。最後に、2024 年第 1 四半期の**税引前利益**は 8 億 7,200 万ユーロとなりました（2023 年第 1 四半期は 5 億 200 万ユーロ）。税金費用は 2 億 500 万ユーロでした。これにより、2024 年度第 1 四半期の**表示純利益グループ帰属分**は 96.0%増と大幅に増加し、6 億 5,100 万ユーロとなりました。

2024 年 3 月末のリスク・ウェイト資産は、2023 年 12 月末比で 16 億ユーロ増加し、1,265 億ユーロになりました。この変動は、為替の悪影響と低い格付けなどによるものです。

資産運用サービスの業績

2024 年第 1 四半期の資産運用サービスの**収益**は、2023 年第 1 四半期比で 41.1%増加し、5 億 800 万ユーロとなりました。これには、ISB の統合に伴う連結範囲変更の影響 1 億 800 万ユーロが含まれます。この収益増は、資産の増加による手数料収入の好業績、それに純利鞘の上昇傾向が原動力となりました。**営業費用**は 58.0%（SRF を除く）増加し、3 億 7,500 万ユーロとなりました。これには、ISB による連結範囲変更の影響 1 億 300 万ユーロと、特殊要因として修正再表示された ISB の統合費用 2,000 万ユーロが含まれます。2024 年第 1 四半期の**営業総利益**は 1 億 3,400 万ユーロと大幅に増加しました（69.1%増）（SRF を除くと 8.7%増（2023 年第 1 四半期の SRF は 4,400 万ユーロ））。**ISB の統合費用を除いたコスト比率**は 2023 年度第 1 四半期比 4.8 ポイント上昇し、69.8%（SRF を除く）となりました。また、当四半期には持分法適用会社からの所得 400 万ユーロも計上しました。これにより、**純利益**は 1 億 500 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 60.5%増加しました。非支配持分 3,400 万ユーロ控除後の、当部門の**純利益グループ帰属分**への寄与は 2024 年度第 1 四半期に 7,100 万ユーロとなり、前年同期比で 60.5%増加しました。

専門金融サービス部門の活動

2024 年度第 1 四半期の**クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンス（CA コンシューマー・ファイナンス）の商業組成**は 120 億ユーロで、2023 度年第 3 四半期以降安定して推移していますが、2023 年度第 1 四半期と比べて 9.7%減少しました。これは中国の GAC Sofinco での減少によるものでした。四半期の新規組成に占める自動車ローンの割合[48]は 52%と高く推移しており、組成の平均顧客向け金利は 2023 年度第 4 四半期と比べて 23 ベーシス・ポイント上昇しました。その結果、CA コンシューマー・ファイナンスの 2024 年 3 月末の**運用資産**は 1,144 億ユーロとなり、自動車関連企業での増加（13.1%増）により、2023 年 3 月末と比べて 8.4%増加しました[49]。よって、2024 年 3 月末までの**連結残高**は、2023 年第 2 四半期以降の CA オートバンクの完全連結により、前年同期比 73%増の 681 億ユーロとなりました。

機器リースに関するクレディ・アグリコル・リース&ファクタリング (CAL&F) の商業組成は、ポーランド国内及び地域銀行との活発な取引に支えられ、2023 年第 1 四半期比で 6.2%増加しました。2024 年 3 月末時点の**リース残高**は、フランス国内と国外で前年比+9.1%増の 194 億ユーロ（うちフランス国内が 154 億ユーロ、国外 40 億ユーロ）となりました。**ファクタリングの商業組成**は、ドイツにおける多くの大型案件に支えられ、2023 年第 1 四半期並みとなりました（1.5%減）。**ファクタリング残高**は、ファクタリング収益の増加傾向（前年同期比 3.8%増）により、2023 年末比 2.2%増の 304 億ユーロとなりました。最後に、CAL&F のモビリティ・セグメントは、AgilautoPartage のすべての地域銀行での展開など、急速な発展を続けています。

[48] *CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業*
[49] *CA オートバンクと自動車関連のジョイント・ベンチャー*

専門金融サービス部門の業績

2024 年度第 1 四半期の専門金融サービスの**収益**は 8 億 4,600 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期に比べて 26.0%増加しました。これを後押ししたのは、2023 年度第 2 四半期から強化された戦略的なモビリティ重視、とりわけ CA オートバンクの統合でした[50]。**費用**は連結範囲変更の影響[50]などにより 22.5%増の合計 4 億 5,400 万ユーロ (SRF を除く) となりました。**コスト比率**は、2023 年度第 1 四半期と比べて 1.5 パーセント・ポイント改善し（SRF を除く）[51]、53.6%となりました。**営業総利益**は 3 億 9,200 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 45.4%増（SRF の寄与を除くと 30%増）となりました[51]。**リスク関連費用**は 2 億 1,900 万ユーロでとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 38.1%増加しましたが、2023 年第 1 四半期以降、残高の増加にもかかわらずおおむね安定しています。**純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 1 四半期比で 12.1%増の 1 億 4,200 万ユーロとなりました。

同部門は、2024 年度第 1 四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 7%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 12%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は 67 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 704 億ユーロでした。

2024 年度第 1 四半期の基礎 **RoNE（調整株主資本利益率）**は 8.3%でした。

消費者金融の業績

CA コンシューマー・ファイナンスの 2024 年第 1 四半期の**収益**は合計 6 億 6,900 万ユーロで、2023 年第 1 四半期と比べて 31.2%増加しました。これを後押ししたのは、2023 年度第 2 四半期以降の CA オートバンクの全面的な連結でした。連結範囲変更の影響[50]を除いた収益は、残高の増加により一部相殺されましたが、（顧客向け金利と組成マージンがやや上昇したものの）在庫マージンが縮小したことを背景に減少しました。**費用**は 3 億 5,500 万ユーロで、2023 年第 1 四半期と比べて 28.0% (SRF[51]を除く) 増加しました。CA オート・バンクによる連結範囲変更の影響を除く経費は 2.6%増（SRF を除く）と抑制されました[5052]。よって、**営業総利益**は 44.9%増（SRF を除くと 35%増）の 3 億 1,500 万ユーロとなりました[54]。**コスト比率**は、2023 年度第 1 四半期と比べて 1.3 パーセント・ポイント改善し（SRF を除く）、53%となりました。**リスク関連費用**は、CA オートバンクの統合やその他の国際事業体の残高増加の影響で、2023 年度第 1 四半期と比べて 36%増の 1 億 9,900 万ユーロとなりましたが、2023 年度第 2 四半期以降は横ばいで推移しています。**残高に対するリスク関連費用**は、2023 年度第 1 四半期と比べて 2 ベーシス・ポイント低下（2023 年度第 2 四半期と比べて 17 ベーシス・ポイント低下）し、117 ベーシス・ポイント[52]となりました。2024 年 3 月末の不良債権比率は 4.1%、不良債権引当率は 78.7%となり、2023 年 3 月末と比べてそれぞれ 0.1 パーセント・ポイントと 2.1 パーセント・ポイント低下しました。CA オートバンクの全面的な連結により、**持分法適用会社**の寄与は 2023 年度第 1 四半期に比べて 56.8%減少しました。**税金費用**は 2023 年度第 1 四半期比 32%増の 2,900 万ユーロとなりました。この結果、2024 年度第 1 四半期の**純利益グループ帰属分**は 2023 年度第 1 四半期比 2.4%増の合計 9,900 万ユーロとなりました。

---

[50] *CA オートバンクによる連結範囲変更の影響（2024 年度第 1 四半期）：収益 1 億 8,300 万ユーロ、費用 7,000 万ユーロ、リスク関連費用 3,500 万ユーロ*

[51] *CACF の SRF 拠出額は、2023 年度第 1 四半期に 1,600 万ユーロとなりました。*

[52] *過去 4 四半期の期首の平均残高に対する直近 4 四半期のリスク関連費用の割合*

リースとファクタリングの実績

CAL&F の**総収益**は 1 億 7,700 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 9.5%増加しました。この増加の原動力となったのは、件数増加の影響（ファクタリング収益と機器リース残高の増加）などによるフランスおよび海外のすべての事業部門、ポーランドにおける為替レートの好影響、それにマージン管理の厳格化でした。**経費**は SRF[53]を除いて 6.1%増とやや増加したが、フランスでの給与及び IT コストの増加に限られた。**コスト比率**は 2023 年度第 1 四半期と比べて 1.8 パーセント・ポイント改善し（SRF を除く）[54]、56.1%となりました。**営業総利益**は 47.4%増（SRF の寄与を除くと 14%増）の合計 7,800 万ユーロとなりました。**リスク関連費用**はレベル 3 の引当金の増加などにより、2023 年度第 1 四半期に比べて 65.1%増の 1,900 万ユーロとなりました。**残高に対するリスク関連費用**は、2023 年度 1 四半期比で 2 ベーシス・ポイント上昇し、21 ベーシス・ポイントとなりました。税**金費用**は事業成長に伴い、2023 年第 1 四半期に比べて 10.5%増加して 1,300 万ユーロとなりました。その結果、**純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 1 四半期に比べて 43.1%増加して 4,400 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.リテール・バンキング部門の活動

クレディ・アグリコル S.A.のリテール・バンキング部門では、当四半期中、金利上昇の中でローン組成が失速しましたが、顧客獲得は安定したペースが続き、保険契約の加入者数は高水準で推移しています。

フランスのリテール・バンキング部門の活動

2024 年度第 1 四半期には、新規顧客獲得数 8 万 3,200 人、純顧客獲得数は 1 万 3,600 人となりました。自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、前年同期比で 0.4 ポイント上昇し、2024 年 3 月末には 27.8%になりました。

顧客向け金利の高止まりを背景に、2024 年度第 1 四半期のローン組成は 51 億ユーロとなり、前年同期比で 29%減少しました。ローン組成は、法人向けの組成は増加したものの（29%増）、その他の組成では、不動産市場の減速を背景に住宅ローンの組成（54%減）を中心に減少しました（フランス銀行によると、2023 年 1 月、2 月から 2024 年 1 月、2 月までの住宅ローン組成は 36%減)。住宅ローンの組成率は 4.20%で、2023 年第 4 四半期から 2024 年第 1 四半期まで横ばい（4 ベーシス・ポイント上昇）で推移しました。

貸出残高は 2024 年 3 月末で 1,681 億ユーロとなり、2023 年 3 月末比で 1.5%増加しました。これには、住宅ローン（2.0%増）、スモールビジネス向け貸付（2.1%増）、企業向け貸付（0.2%減）、消費者金融（0.2%増）が含まれます。しかし、3 月末時点の貸出残高は 2023 年 12 月末をやや下回りました（0.4%減）。顧客資産総額は 2024 年 3 月末時点で 2,508 億ユーロで、2023 年 3 月末と比べて 4.1%増加しました。この増加の原動力となったのは、プラスの市場効果によるオフ・バランスシートの預金（2.1%増）、預金通帳口座や定期預金の増加によるオン・バランスシートの預金（5.2%増）（2023 年 3 月から 2024 年 3 月までに 55.6%、2023 年 12 月から 2024 年 3 月までに 7.9%増）でした。

イタリアのリテール・バンキング部門の活動

2024 年第 1 四半期、**CA イタリアの**総顧客獲得数は 5 万人となり、顧客基盤は約 14,000 人増加しました。CA イタリアの 2024 年 3 月末時点の貸出残高は 601 億ユーロ[54]に達し、2023 年 3 月末比で 1.5%増加しました。ローン組成は前年比 13.2%減少しましたが、専門家向けのローン組成は 24.3%増加しました。イタリアの住宅市場の低迷に伴い、住宅ローンの組成は 11.6%減少しました[55]。ローン残高率は 2023 年度第 4 四半期並みで推移しています。消費者金融の組成[56]は 2023 年第 1 四半期と比べて 9.8%減少しました。2024 年 3 月末の顧客資産総額は 1,163 億ユーロで、2023 年 3 月末と比べて 4.5%増加しました。オン・バランスシートの預金は個人からの要求払預金が原動力となり、前年比+5, 8%増、2023 年第 4 四半期並みの高水準で推移しています。

自動車、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険及び傷害保険における CA イタリアの

---

[53] *CAL&F の SRF 拠出額は、2023 年度第 1 四半期に 1,500 万ユーロとなりました。*
[54] *POCI 残高の控除後*
[55] *出典：イタリア中央銀行：2 月の住宅ローン組成は前年同月比 16.5%減*
[56] *Agos*

クロスセル・レートは 19.3%に上昇しました（2023 年度第 1 四半期と比べて 2 パーセント・ポイント上昇）。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の活動

イタリアを除く国際リテール・バンキングの 2024 年 3 月末時点の貸付残高は、2023 年 3 月末時点と比較して、現在の為替レートで 4.9%増加しました（為替変動の影響を除くと 4.7%増）。顧客資産は同期間に現在の為替レートで 6.3%増加しました（為替変動の影響を除くと 9.2%増）。

特にポーランドでは、預金獲得競争が激しくなるなか（特にリテールの資金流入に影響）、2023 年 3 月末比で貸付残高は 14.4%増（為替変動の影響を除くと 5.3%増）、顧客資産は同期間で 9.5%増（為替変動の影響を除くと 2.0%減）となりました。ポーランドにおけるローン組成も堅調に推移し、2023 年第 1 四半期と比較して現在の為替レートで 29.5%増加しました（為替変動の影響を除くと 19%増）。

エジプトでは、エジプト・ポンド安の影響により、ローン残高は 2023 年 3 月末から 2024 年 3 月末までに 16.7%減少しました（為替変動の影響を除くと 27.0%増）。顧客資産は同期間に 18.1%減少しました（為替変動の影響を除くと 25.0%増）。ポーランドとエジプトでは、2024 年 3 月 31 日現在、融資を上回る預金が 15 億ユーロあり、ウクライナを含めると 33 億ユーロに達します。

フランスのリテール・バンキングの業績

2024 年度第 1 四半期の LCL の収益は 9 億 5,400 万ユーロに達し、2023 年度第 1 四半期と比べ 1.8%増となりました。純利鞘は 2023 年第 1 四半期並みで、ローンの段階的な価格改定とマクロヘッジの寄与が顧客資源と借り換えコストの増加を相殺しました。すべての事業ライン、とりわけ生命保険・損害保険や支払手段を原動力として、手数料収入も大幅に増加しました（3.8%増）。費用は抑制され、合計 6 億 200 万ユーロとなりました。SRF を除いた費用は、投資の加速による人件費や IT 費用の増加を反映し、やや増加しました[57]（0.5%増）。SRF を除いたコスト比率は、0.8 パーセント・ポイント減の 63.2%と低水準で推移しました。

営業総利益は、22.4%増の 3 億 5,100 万ユーロになりました（SRF を除くと 4.2%増）。

リスク関連費用は 80%増の 1 億 1,900 万ユーロとなりました（内訳は正常債権に対するリスク関連費用 700 万ユーロ、確認済みリスク関連費用 1 億 2,700 万ユーロ、その他のリスク関連費用 100 万ユーロ）。この増加は、特定の企業グループなどによるものです。それでも、残高に対するリスク関連費用は抑制され、21 ベーシス・ポイントとなりました。2024 年 3 月末時点の不良債権引当率は 59.9%となり、2023 年 12 月末時点に比べて 1.7 パーセント・ポイント低下しました。2024 年 3 月末の不良債権比率は 2.1%となり、2023 年 12 月末並みとなりました（0.1 パーセント・ポイント上昇）。

この結果、純利益グループ帰属分は、2023 年度第 1 四半期比で 14.2%増となりました。

同部門は最終的に、2024 年度第 1 四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 8%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 14%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は 51 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 535 億ユーロでした。2024 年度第 1 四半期の LCL の基礎調整株主資本利益率（RoNE）は、13.3%でした。

国際リテール・バンキングの業績[58]

2024 年度第 1 四半期には、**国際リテール・バンキング部門**の収益は 10 億 5,700 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 9.1%増加（為替変動の影響を除くと 9.7%増加）しました。これは主に、金利上昇を背景とした純金利マージンの拡大によるものです。**営業費用**は、インフレ環境にもかかわらず抑えられ、2023 年度第 1 四半期と比べて 3.5%減（為替変動の影響を除くと 4.0%減）の 5 億 500 万ユーロとなりました。**営業総利益**は 5 億 5,200 万ユーロとなり、同期間中、23.9%増加しました（為替変動の影響を除くと 26.1%増）。**リスク関連費用**は 8,200 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 28.2%減少しました（為替変動の影響を除くと 28.1%減）。

---

[57] *SRF は 5,000 万ユーロ*

[58] *2024 年 3 月 31 日時点で、この範囲には CA イタリア、CA Polska、CA エジプト、CA ウクライナの事業体が含まれます。*

2024 年度第 1 四半期の **CA イタリア、CA エジプト、CA ポーランド、CA ウクライナの全体の純利益グループ帰属分は、**44.2%増（為替変動の影響を除くと 47.2%増）の 2 億 5,670 万ユーロとなりました。

国際リテール・バンキング部門では、2024 年度第 1 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の事業部門（コーポレート・センターを除く）の基礎純利益グループ帰属分の 14%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 15%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日現在、国際リテール・バンキング部門に配分された資本は 44 億ユーロで、当部門のリスク・ウェイト資産は合計 461 億ユーロでした。

イタリアの業績

2024 年度第 1 四半期の**クレディ・アグリコル・イタリア**の収益は、2023 年度第 1 四半期比で 1.8%増加し、7 億 7,500 万ユーロとなりました。良好な金利環境により、純金利マージンは 2023 年度第 1 四半期から 2024 年度第 1 四半期にかけて 2.5%増加し、2023 年第 4 四半期並みに推移しました。2023 年度第 1 四半期比での上昇の原動力は、貸出金利が 19 ベーシス・ポイント上昇したことに加え、2023 年第 1 四半期に比べて資産に関する貸出金利が再評価されたこと (当該貸出金利は 2023 年度第 4 四半期から 2024 年度第 1 四半期まで安定して推移) でした。営業費用は 3 億 8,200 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 2.8%増加しました（SRF を除く）。これは、人件費と国内労働協約の再交渉などが影響しました。CA イタリアでは、2024 年度第 1 四半期に SRF への拠出はありませんでした (2023 年度第 1 四半期は 4,000 万ユーロ) 。全体として、営業総利益は 2023 年度第 1 四半期と比較して 15.0%増加しました。

2024 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、2023 年度第 1 四半期比横ばいの 6,100 万ユーロとなりました。これには、確認済みリスクに関する 5,000 万ユーロ、正常債権に対する引当 700 万ユーロが含まれます。残高に対するリスク関連費用[59]は、2023 年度第 4 四半期比横ばいの 55 ベーシスポイントとなりました。不良債権比率は 3.7%と、2023 年度第 4 四半期比で安定しており、不良債権引当率は 71.5%となりました（2023 年度第 4 四半期から 1.8 ポイント上昇）。その結果、CA イタリアの基礎純利益グループ帰属分は、2023 年度第 1 四半期比 12.6%増の 1 億 8,000 万ユーロとなりました。

2024 年 3 月 31 日時点の CA イタリアの基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 25.1%となりました。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の業績

2024 年第 1 四半期には、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**の**収益**は 2 億 8,300 万ユーロとなり、2023 年第 1 四半期と比べて 35.8%増加（為替変動の影響を除くと 39.0%増加）しました。収益の増加は、金利が良好で、(EGP の切り下げを背景に)為替動向が例外的であったエジプトで大きなものとなりました（現在の為替レートで 47.4%増、為替変動の影響を除くと 76.3%増）。2023 年第 1 四半期のポーランドでの収益は、純金利マージンの上昇により、37.4% 増加（為替変動の影響を除くと 26.2%増加）しました。**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**の**営業費用**は 1 億 2,360 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 10.4%増加（為替変動の影響を除くと 7.7%増加）しました。**営業総利益**は 1 億 5,900 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期比で 65.5%増加しました（為替変動の影響を除くと 79.7%増）。**リスク関連費用**は 2,100 万ユーロとなり、為替変動の影響を除いて 61.1%減少しました（なお、2023 年第 1 四半期には、ウクライナで 3,300 万ユーロの慎重な引当を実施しています）。さらに、2024 年 3 月末時点で、貸付残高の不良債権引当率はポーランドで 121%、エジプトで 172%と高水準にとどまっています。ウクライナでは、国内の不良債権引当率は引き続き慎重な水準（316%）となっています。全体では、**イタリアを除く国際リテール・バンキング部門**は純利益グループ帰属分に 7,670 万ユーロ寄与し、2023 年第 1 四半期と比べて 4.2 倍となりました。2024 年 3 月 31 日時点で、その他 IRB（CA イタリアを除く）の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は、2023 年 3 月 31 日時点の 17.4%に対して 47.0%となりました。

国際リテール・バンキング部門全体では、2024 年度第 1 四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 22%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 29%に寄与しました。

2024 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は 96 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 978 億ユーロでした。

[59] *ローリング 4 四半期ベース。*

コーポレート・センターの業績

2024 年度第 1 四半期のコーポレート・センター部門の基礎純利益グループ帰属分はマイナス 1 億 700 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期から 1 億 9,800 万ユーロ悪化しました。コーポレート・センター部門のマイナス寄与は、「構造的」寄与（マイナス 1 億 650 万ユーロ）とその他の項目（マイナス 50 万ユーロ）に区別して分析することができます。

「構造的」部分の寄与は 2023 年度第 1 四半期と比較して 2 億 7,400 万ユーロ増加し、次の 3 事業に分けることができます。

- 親会社クレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業と機能。2024 年第 1 四半期の寄与は、SRF への拠出終了のプラス効果（プラス 7,100 万ユーロ）を含めて 9,100 万ユーロ増のマイナス 2 億 9,500 万ユーロとなった。
- CACIF（未公開株式）、CA イモビリエ、CATE、BforBank（持分法適用）など、事業ラインに含まれない事業。2024 年度第 1 四半期の寄与は 1 億 8,400 万ユーロで、2023 年度第 1 四半期に比べて 1 億 8,000 万ユーロ増加しました。これは、Banco BPM 証券の再評価（2024 年 3 月 31 日時点では 6.17 ユーロに設定）による 2 億 200 万ユーロのプラスの影響によるものです。
- グループ支援機能。当四半期の寄与は 400 万ユーロでした（2023 年度第 1 四半期比で 300 万ユーロ増加）。

「その他の項目」の寄与は、アムンディが引き受けたグループ内証券の消却によるマイナスの影響により、2023 年第 1 四半期と比べて 7,600 万ユーロ減少しました。

クレディ・アグリコル全体での保険事業の連結に伴う「内部マージン」効果は、コーポレート・センターを通じて計上されました。内部マージンの影響は当四半期、収益で-2 億 500 万ユーロ、経費で+2 億 500 万ユーロでした。

2024 年 3 月 31 日現在、リスク・ウェイト資産は 282 億ユーロでした。

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループ

2024 年 3 月 31 日時点で、クレディ・アグリコル・グループの**段階適用の普通株式等 Tier 1（CET1）レシオ**は 17.5%となり、2023 年 12 月末から横ばいとなっています。この結果、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と SREP 要件 9.7%との間で 7.8 パーセント・ポイントという大きなバッファーを上げました。全面適用ベースの CET1 レシオは 17.4%でした。

2024 年度第 1 四半期中の結果は以下のとおりです。

- 当四半期の CET1 レシオは、**留保利益**により、29 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受けました。
- **事業ラインの内部的成長**に関連するリスク・ウェイト資産の変動は、クレディ・アグリコル・グループの CET 1 レシオに-28 ベーシス・ポイントの影響を与えました（以下を参照）。
- 方法及び規制はクレディ・アグリコル S.A.に同様の影響を及ぼし、CET1 比率にマイナス 3 ベーシス・ポイントの影響を与えます。特に、**IFRS 第 9 号の経過措置**の段階的終了 (段階的廃止) は、2024 年第 1 四半期に-9 ベーシス・ポイントのマイナスの影響を与えるでしょう。段階的廃止は 2025 年に終了する予定であり、2025 年にさらにマイナス 8 ベーシス・ポイントの影響があると予想されます。
- **未実現損益、M&A、その他**には、Worldline の少数株主持分の取得による-1 ベーシス・ポイントの影響などがあります。

2024 年 3 月末の段階導入の**ティア 1 レシオ**は 18.7%、段階導入の総自己資本比率は 21.4%となりました。

段階導入のレバレッジ・レシオは 5.5%で、2023 年 12 月末比で安定していますが、規制要件である 3.5%を大きく上回っています。

クレディ・アグリコル・グループの**リスク・ウェイト資産**は、2023 年 12 月 31 日に比べ、80 億ユーロ増加して 6,180 億ユーロになりました。この変動は次のように事業ライン別に分類できます。リテール・バンキングが 5 億ユーロ減、アセット・ギャザリングが 29 億ユーロ増、専門金融サービスが 18 億ユーロ増、大口顧客が 49 億ユーロ増、コーポレート・センターが 11 億ユーロ減。

最大分配可能額（MDA 及び L-MDA）トリガー閾値

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで（CRD）、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが導入されました。最大分配可能額（MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額）の原則は、分配が総合資本バッファー要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDA トリガーまでの距離は、CET1 資本、ティア 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 3 月 31 日時点で **MDA トリガーを 710 ベーシス・ポイント**（CET1 資本で 440 億ユーロ）**上回る**バッファーとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.は、2024 年 3 月 31 日時点で **MDA トリガーを 328 ベーシス・ポイント**（CET1 資本で 130 億ユーロ）**上回る**バッファーとなりました。

レバレッジ・レシオ・バッファーの要件に従わない場合、分配の制限と最大分配可能額（L-MDA）の計算が行われます。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 3 月 31 日時点で **L-MDA トリガーを 197 ベーシス・ポイント**（ティア 1 資本で 420 億ユーロ）**上回る**バッファーとなりました。

TLAC

クレディ・アグリコル・グループは、常に以下の TLAC レシオ要件に従う必要があります。

- リスク・ウェイト資産（RWA）の 18%を超える TLAC レシオと、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファー要件（クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー、及び 2024 年 3 月 31 日に 0.75%に設定されたカウンターシクリカル・バッファー）。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、22.3%超の TLAC レシオに従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー（LRE）の 6.75%超となる TLAC レシオ。

クレディ・アグリコル・グループの 2025 年の目標は、適格優先シニア債を除き、TLAC レシオを RWA の 26%以上に維持することです。

2024 年 3 月 31 日時点の**クレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオ**は、**リスク・ウェイト資産の 27.3%及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 8.0%（適格優先シニア債を除く）**と[60]、要件を大きく上回りました。リスク・ウェイト資産の比率として表される TLAC レシオは、当期中の自己資本・適格資産項目の増加に伴い、当四半期で 40 ベーシス・ポイント増加しました。レバレッジ・エクスポージャーの比率（LRE）として表される TLAC レシオは、2023 年 12 月と比べて安定的に推移しました。

よって、当グループの適格優先シニア債を除く TLAC レシオは、RWA の 22.3%という現在の要件を 500 ベーシス・ポイント（310 億ユーロ）上回っています。

2024 年 3 月末時点で、12 億 5,000 万ユーロの AT1 に加えて、45 億ユーロ相当が市場で発行されています（非優先シニア債及びティア 2 債券）。TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、309 億ユーロでした。

MREL

要求される最低水準は、破綻処理当局の決定によって定められ、各金融機関に通知され、その後は定期的に改訂されます。2024 年 1 月 1 日以降、クレディ・アグリコル・グループは、以下の MREL 最低合計要件を満たす必要があります：

- 21.71%の RWA と、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファー要件（クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー、及び 2024 年 3 月 31 日に 0.75%に設定されたカウンターシクリカル・バッファー）。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、26.0%超の合計 MREL レシオに従う必要があります。
- LRE の 6.13%。

2024 年 3 月 31 日時点の**クレディ・アグリコル・グループの MREL レシオは、リスク・ウェイト資産の 33.0%及びレバレッジ・エクスポージャーの 9.7%と、**合計 MREL 要件を大きく上回りました。

TLAC に対する追加的な劣後要件（劣後 MREL）も破綻処理当局によって決定され、TLAC と同様に、優先債務証券が除外されている RWA と LRE の比率で表されます。この比率はクレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL に相当します。2024 年 3 月 31 日時点で、クレディ・アグリコル・グループのこの劣後 MREL 要件は TLAC 要件を上回っておらず、リスク・ウェイト資産（及び総合資本バッファー要件）の 17.14%、それにレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 6.13%となりました。

MREL 要件に関連する最大分配可能額（M-MDA）トリガーまでの距離は、RWA で表される MREL、劣後 MREL 及び TLAC 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 3 月 31 日時点で **M-MDA トリガー**を 500 ベーシス・ポイント**（2024 年 3 月 31 日時点で適用可能な TLAC 要件を考慮、CET1 資本の 310 億ユーロ）上回る**バッファーとなりました。

クレディ・アグリコル・グループは、遅くとも 2024 年 6 月 30 日以降、以下の MREL 要件に準拠する必要があると予想しています。

- 合計 MREL 比率：リスク・ウェイト資産の 22.01%（これに総資本バッファー要件が追加されます）及びレバレッジ・

[60] *クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則（CRR）第 72b 条 3 項が認めている、2024 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を放棄することを選択しました。*

エクスポージャーの 6.25%
- 劣後 MREL 比率:リスク・ウェイト資産の 18.25%(これに総資本バッファー要件が追加されます)及びレバレッジ・エクスポージャーの 6.25%

クレディ・アグリコル S.A.

2024 年 3 月 31 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.のソルベンシーレシオは中期計画目標を上回っており、段階適用の**普通株式ティア 1(CET1)レシオは 11.8%**となり、2023 年 12 月末と比べて安定的に推移しました。この結果、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と 8.6%という SREP 要件の間で 3.3 パーセント・ポイントという十分なバッファーを達成しました。全面適用ベースの CET1 レシオも 11.8%となりました。

2024 年度第 1 四半期中の結果は以下のとおりです。
- 当四半期の CET1 レシオは、**留保利益**に関連する 23 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受けました。この影響は、AT1 債券利息の控除後(プラス 45 ベーシス・ポイントの影響)及び利益の 50%分配の控除後(すなわち 2024 年度第 1 四半期の 1 株当たり 0.29 ユーロの配当準備金(マイナス 22 ベーシス・ポイントの影響))の純利益グループ帰属分に対応します。
- 事業ラインの自律的成長に関連する**リスク・ウェイト資産**の変動は、保険事業ライン (マイナス 6 ベーシス・ポイント) を中心に CET1 レシオにマイナス 21 ベーシス・ポイントの影響を与え、またその他の事業ラインはマイナス 15 ベーシス・ポイントの影響を与えました。
- **方法及び規制の影響**は当四半期の同レシオに 3 ベーシス・ポイントのプラスの影響を与えました。とりわけ、IFRS 第 9 号の経過規定の段階的廃止に伴い、2024 年度第 1 四半期にはマイナス 5 ベーシス・ポイントの影響がありました。段階的廃止は 2025 年に終了する予定であり、2025 年にさらにマイナス 5 ベーシス・ポイントの影響があると予想されます。
- **未実現損益、M&A、その他**には、Worldline の少数株主持分の取得による-1 ベーシス・ポイントの影響などがあります。

2024 年 3 月末の段階適用の**レバレッジ比率**は 3.9%となり、2023 年 12 月末から 0.1 ポイント上昇し、規制要件である 3%を上回っています。

当四半期末の段階導入の**ティア 1 レシオ**は 13.6%、段階導入の総自己資本比率は 17.8%となりました。

2024 年 3 月末時点で、クレディ・アグリコル S.A.の**リスク・ウェイト資産**は 3,930 億ユーロとなり、2023 年 12 月 31 日と比べて 51 億ユーロ増加しました。この変動は次のように事業ライン別に分類できます。
- アセット・ギャザリングでは、2024 年第 1 四半期の収益による 17 億ユーロの保険のリスク・ウェイト資産を含め、28 億ユーロの増加となりました。
- 専門金融サービスでは、消費者金融の成長により 16 億ユーロ増加しました。
- 大口顧客では、当四半期中にリスク・ウェイト資産が 47 億ユーロ増加しました。これは CACEIS に集中しており、合計で 31 億ユーロの増加となりました。その一部は今後の四半期で戻される可能性があります。
- リテール・バンキング部門とコーポレート・センター部門のリスク・ウェイト資産は、それぞれ 33 億ユーロと 7 億ユーロ減少しました。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、当グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクションの間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これはバンキング部門の範囲に関係するものであり、保険事業はそれぞれの独自の規制上の制約に従って管理されます。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2024 年 3 月末時点で総額 540 億ユーロの相殺が行われました。同様に、1,430 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、除外されています。キャッシュ・バランスシートを確立するために算出された、2024 年 3 月末現在で 1,700 億ユーロに上る相殺は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門が保有する非流動証券に関係し、「顧客関連取引資産」に含まれています。

キャッシュ・バランスシートを作成するために預金供託公庫に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額（2024 年 3 月末時点で 1,010 億ユーロ）は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中央銀行からの流動性調達取引については、T-LTRO（長期資金供給オペ）に関連する残高は、「長期市場資金」に含まれることにご注意ください。実際に、T-LTRO3 の取引は、流動性リスクの点で担保付き発行と同一の長期保証資金供給に類似しています。

中長期レポ取引も「長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、われわれと商業的関係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2024 年 3 月 31 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 7,180 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 1,860 億ユーロ**でした。3 月の TLTRO の返済（210 億ユーロ）後で、2023 年 12 月末と比べて 40 億ユーロ減少しました。

さらに、クレディ・アグリコル・グループの TLTRO 3 残高の合計は 2024 年 3 月 31 日時点で 58 億ユーロ [62]、当四半期中の返済により 210 億ユーロ減少しました[61]。安定的なリソースのポジションに関しては、内部管理目的では、返済戦略に関わらず、中期計画の目標である 1,100 億ユーロから 1,300 億ユーロを確保するため、T-LTRO3 残高の増加による安定資金の一時的な余剰は除外している点に注意が必要です。

また、流動性が超過していることから、2024 年 3 月 31 日現在、当グループは短期貸付のポジション（中央銀行預け金が短期債務純額を上回っていること）を維持しています。

[61] *CA オートバンクを含む*

中長期市場資金は 2024 年 3 月 31 日現在で 2,620 億ユーロになり、2023 年 12 月末と比べて 10 億ユーロ減少しました。優先シニア債と非優先シニア債の発行は、2023 年 12 月の T-LTRO 3 の返済を相殺しました。

これには、820 億ユーロの担保付きシニア債、1,220 億ユーロの優先シニア債、350 億ユーロの非優先シニア債、230 億ユーロのティア 2 債券が含まれます。

2024 年 3 月 31 日時点の当グループの流動性準備金は、ヘアーカット後の時価で 4,760 億ユーロとなり、2023 年 12 月 31 日から 310 億ユーロ増加しました。

流動性準備金は短期債務純額の 2 倍以上に達しました（中央銀行との置き換えを除く）。

流動性準備金の増加の主な要因は、以下のとおりです。

- TLTRO 返済後の担保解除（プラス 190 億ユーロ）
- CACEIS 及び地域銀行における HQLA 証券ポートフォリオの増加（プラス 80 億ユーロ）
- 主にクレディ・アグリコル CIB と CA コンシューマー・ファイナンスの資金管理に関連する中央銀行預け金の増加（プラス 40 億ユーロ）

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金（ECB の資金供給に依拠した後）を維持する取組みを継続しています。ヘアーカット後の中央銀行適格非 HQLA 資産は 1,540 億ユーロとなりました。

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2024 年 3 月 31 日時点の LCR レシオは、クレディ・アグリコル・グループが 141.7%（927 億ユーロの余剰に相当）、**クレディ・アグリコル S.A.が 146%**（889 億ユーロの余剰に相当）でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回りました。

加えて、**クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率（NSFR）は 100%を超え**、2021 年 6 月 28 日以降適用される規制要件に適合し、100%超という MTP 目標を上回っています。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も**中長期資金供給**について慎重な方針に従います。

当グループの主要発行体は 2024 年度第 1 四半期に、中・長期債によって市場で 272 億ユーロ相当額を調達し、[62][63] このうちの 56%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。具体的には、グループでは以下の金額が計上されています。

- クレディ・アグリコル CIB はストラクチャード形式で 67 億ユーロを発行しました。
- クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスは、クレディ・アグリコル・オートバンク（CAAB）を介して 9 億ユーロ相当の EMTN を発行しました。
- CA イタリアは、総額 15 億ユーロの 2 件の担保付きシニア債を発行し、そのうち 5 億ユーロはグリーン形式で発行しました。
- クレディ・アグリコル・ネクスト・バンク (スイス) は、総額 2 億スイスフランの担保付きシニア債形式で 2 件のトランシェを発行し、そのうち 1 億スイスフランはグリーン形式で発行しました。

当グループの中長期の資金調達の内訳は以下の通りです。

- 担保付き資金調達 71 億ユーロ
- プレーンバニラ無担保資金調達 118 億ユーロ
- ストラクチャード・ファイナンス 67 億ユーロ
- 機関からの長期預金と CD 17 億ユーロ

さらに、67 億ユーロがオフマーケットの発行により調達され、以下の内訳となりました。

[62] *買戻し及び部分返済控除前の総額*
[63] *AT1 発行を除く*

- バンキング・ネットワーク（当グループのリテール・バンキングまたは外部のネットワーク）から 52 億ユーロ
- 国際的な組織または金融機関から 2 億ユーロ
- 国内の借り換え媒体（信用機関 CRH を含む）から 13 億ユーロ

2024 年度第 1 四半期、クレディ・アグリコル S.A.は市場を通じて 152 億ユーロ相当の資金を調達しました[63][64]。これは **2024 年の借換プログラムの 58%に相当します**。

当行は 152 億ユーロ相当額を調達し、3 月末時点で、このうち 30 億ユーロ相当額が非優先シニア債、15 億ユーロ相当額がティア 2 債券、59 億ユーロ相当額が優先シニア債、48 億ユーロ相当額が担保付シニア債でした。資金調達は以下を含め、様々な形式と通貨で構成されています。

- 28 億ユーロ[64]
- 48 億 5,000 万米ドル（44 億 5,000 万ユーロ相当）
- 6 億ポンド（7 億ユーロ相当）
- 1,570 億円（9 億 7,000 万ユーロ相当）
- 4 億スイスフラン（4 億 3,000 万ユーロ相当）
- 17 億 5,000 万豪ドル（11 億ユーロ相当）

クレディ・アグリコル S.A.は 3 月末時点で資金調達計画の 73%をユーロ以外の通貨で発行しています[65]。[66]

2024 年 1 月 2 日にクレディ・アグリコル S.A.は 12 億 5,000 万ユーロの NC6 年 AT1 永久債を発行し、当初の利率は 6.5%でした。また、2024 年 1 月 23 日の初回コール日に 17 億 5,000 万ドルの AT1 債券（144A：US225313AD75 及び RegS：USF22797RT78）の償還を発表しました。

3 月末以降、26 億ユーロの追加資金調達が実施されました。そのうち、担保付きシニア債が 12 億 5,000 万ユーロ、ティア 2 債が 10 億ユーロ、シニア優先形式のパンダ債が 3 億ユーロ相当でした。したがって、4 月末時点での発行額は 177 億ユーロ、すなわち 2024 年の資金調達計画の 68%[67]となりました。

[64] *担保付きシニア債を除く。*
[65] *担保付きシニア債を除く。*
[66] *AT1 発行を除く*
[67] *AT1 発行を除く*

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

付属資料 1 ー 特殊要因（クレディ･アグリコル･グループとクレディ･アグリコル S.A.）

クレディ･アグリコル･グループ ー 特殊要因（2024 年度第 1 四半期、2023 年度第 1 四半期）

€m	Q1-24		Q1-23	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	5	4	(8)	(6)
Loan portfolio hedges (LC)	2	1	(24)	(18)
Home Purchase Savings Plans (LCL)	(0)	(0)	-	-
Home Purchase Savings Plans (CC)	2	1	-	-
Home Purchase Savings Plans (RB)	41	30	-	-
Total impact on revenues	**50**	**37**	**(32)**	**(24)**
ISB integration costs (LC)	(20)	(10)	-	-
Total impact on operating expenses	**(20)**	**(10)**	**-**	**-**
Provision for risk Ukraine (IRB)	(20)	(20)	-	-
Total impact on cost of credit risk	**(20)**	**(20)**	**-**	**-**
Degroof Petercam aquisition costs (AG)	(8)	(6)	-	-
Total impact on Net income on other assets	**(8)**	**(6)**	**-**	**-**
Total impact of specific items	**2**	**1**	**(32)**	**(24)**
Asset gathering	(8)	(6)	-	-
French Retail banking	41	30	-	-
International Retail banking	(20)	(20)	-	-
Specialised financial services	-	-	-	-
Large customers	(12)	(5)	(32)	(24)
Corporate centre	2	1	-	-

** Impact before tax and before non-controlling interests*

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

クレディ・アグリコル S.A.ー 特殊要因（2024 年度第 1 四半期、2023 年度第 1 四半期）

€m	Q1-24		Q1-23	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	5	4	(8)	(6)
Loan portfolio hedges (LC)	2	1	(24)	(17)
Home Purchase Savings Plans (FRB)	2	1	-	-
Home Purchase Savings Plans (CC)	(0)	(0)	-	-
Total impact on revenues	**9**	**6**	**(32)**	**(23)**
ISB integration costs (LC)	(20)	(10)	-	-
Total impact on operating expenses	**(20)**	**(10)**	**-**	**-**
Provision for risk Ukraine (IRB)	(20)	(20)	-	-
Total impact on cost of credit risk	**(20)**	**(20)**	**-**	**-**
Degroof Petercam aquisition costs (AG)	(8)	(6)	-	-
Total impact Net income on other assets	**(8)**	**(6)**	**-**	**-**
Total impact of specific items	**(39)**	**(30)**	**(32)**	**(23)**
Asset gathering	(8)	(6)	-	-
French Retail banking	2	1	-	-
International Retail banking	(20)	(20)	-	-
Specialised financial services	-	-	-	-
Large customers	(12)	(5)	(32)	(23)
Corporate centre	(0)	(0)	-	-

** Impact before tax and before non-controlling interests*

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

付属資料 2 ー クレディ･アグリコル･グループ：部門別実績

クレディ･アグリコル･グループ ー 部門別寄与（2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期）

	Q1-24 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**3,314**	**954**	**1,081**	**1,793**	**846**	**2,266**	**(728)**	**9,525**
Operating expenses excl. SRF	(2,484)	(602)	(524)	(754)	(454)	(1,297)	527	(5,589)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	**830**	**351**	**556**	**1,039**	**392**	**969**	**(201)**	**3,936**
Cost of risk	(247)	(119)	(84)	(3)	(219)	33	(13)	(651)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	5	-	-	29	30	4	-	68
Net income on other assets	2	2	(0)	(8)	(0)	0	(2)	(7)
Income before tax	**589**	**234**	**472**	**1,056**	**203**	**1,006**	**(216)**	**3,347**
Tax	(147)	(53)	(143)	(220)	(42)	(235)	85	(755)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	**442**	**181**	**330**	**837**	**161**	**772**	**(131)**	**2,592**
Non controlling interests	(0)	(0)	(51)	(112)	(19)	(34)	7	(208)
Net income Group Share	**442**	**181**	**279**	**725**	**142**	**738**	**(123)**	**2,384**

	Q1-23 (stated)							
€m	RB	LCL	AG	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**3,333**	**936**	**1,745**	**989**	**672**	**2,051**	**(800)**	**8,927**
Operating expenses excl. SRF	(2,441)	(599)	(715)	(501)	(371)	(1,121)	464	(5,284)
SRF	(113)	(50)	(6)	(40)	(31)	(314)	(72)	(626)
Gross operating income	**779**	**287**	**1,024**	**449**	**270**	**616**	**(408)**	**3,018**
Cost of risk	(172)	(66)	(1)	(115)	(158)	(36)	0	(548)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	7	-	22	0	74	4	0	108
Net income on other assets	1	(0)	0	0	(1)	5	(1)	4
Income before tax	**616**	**221**	**1,045**	**334**	**184**	**589**	**(408)**	**2,581**
Tax	(196)	(63)	(231)	(98)	(34)	(183)	94	(711)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	2	0	-	-	2
Net income	**420**	**159**	**815**	**238**	**150**	**405**	**(315)**	**1,872**
Non controlling interests	0	(0)	(111)	(40)	(23)	(19)	(9)	(204)
Net income Group Share	**420**	**158**	**703**	**198**	**127**	**386**	**(324)**	**1,669**

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

付属資料 3 - クレディ･アグリコル S.A.部門別業績

クレディ･アグリコル S.A. ー 部門別寄与（2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期）

€m	Q1-24 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	**1,789**	**2,266**	**846**	**954**	**1,057**	**(107)**	**6,806**
Operating expenses excl. SRF	(754)	(1,297)	(454)	(602)	(505)	(56)	(3,669)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	**1,035**	**969**	**392**	**351**	**552**	**(163)**	**3,137**
Cost of risk	(3)	33	(219)	(119)	(82)	(11)	(400)
Equity-accounted entities	29	4	30	-	-	(20)	43
Net income on other assets	(8)	0	(0)	2	(0)	-	(6)
Income before tax	**1,053**	**1,006**	**203**	**234**	**470**	**(194)**	**2,773**
Tax	(220)	(235)	(42)	(53)	(142)	82	(610)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	**834**	**772**	**161**	**181**	**328**	**(112)**	**2,163**
Non controlling interests	(117)	(50)	(19)	(8)	(71)	5	(259)
Net income Group Share	**716**	**722**	**142**	**173**	**257**	**(107)**	**1,903**

€m	Q1-23 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	**1,746**	**2,051**	**672**	**936**	**969**	**(253)**	**6,121**
Operating expenses excl. SRF	(715)	(1,121)	(371)	(599)	(484)	(39)	(3,328)
SRF	(6)	(314)	(31)	(50)	(40)	(72)	(513)
Gross operating income	**1,024**	**616**	**270**	**287**	**445**	**(363)**	**2,280**
Cost of risk	(1)	(36)	(158)	(66)	(114)	1	(374)
Equity-accounted entities	22	4	74	-	0	(14)	86
Net income on other assets	0	5	(1)	(0)	0	-	4
Income before tax	**1,046**	**589**	**184**	**221**	**332**	**(376)**	**1,996**
Tax	(232)	(183)	(34)	(63)	(98)	88	(521)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	0	-	2	-	2
Net income	**814**	**406**	**150**	**159**	**236**	**(287)**	**1,476**
Non controlling interests	(115)	(29)	(23)	(7)	(58)	(17)	(250)
Net income Group Share	**698**	**376**	**127**	**151**	**178**	**(305)**	**1,226**

CRÉDIT AGRICOLE S.A.

付属資料 4 ー 1 株当たりのデータ

クレディ･アグリコル S.A. ー 1 株当たり利益、1 株当たり純資産額及び ROTE

(€m)		Q1-24	Q1-23
Net income Group share - stated		1,903	1,226
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(138)	(141)
- Foreign exchange impact on reimbursed AT1		(247)	-
NIGS attributable to ordinary shares - stated	[A]	1,518	1,085
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,018	3,024
Net earnings per share - stated	**[A]/[B]**	**0.50 €**	**0.36 €**
Underlying net income Group share (NIGS)		1,933	1,249
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	[C]	1,548	1,108
Net earnings per share - underlying	**[C]/[B]**	**0.51 €**	**0.37 €**

(€m)		31/03/2024	31/03/2023
Shareholder's equity Group share		72,429	69,138
- AT1 issuances		(7,184)	(7,239)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		1,021	1,237
- Payout assumption on annual results*		(3,181)	(3,175)
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	**[D]**	**63,086**	**59,962**
- Goodwill & intangibles** - Group share		(17,280)	(16,960)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	**[E]**	**45,807**	**43,002**
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	3,025.6	3,024.0
NBV per share , after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	20.9 €	19.8 €
+ Dividend to pay (€)	[H]	1.05 €	1.05 €
NBV per share , before deduction of dividend to pay (€)		21.9 €	20.9 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	15.1 €	14.2 €
TNBV per sh., before deduct. of divid. to pay (€)	[G]+[H]	16.2 €	15.3 €

** dividend proposed to the Board meeting to be paid*
*** including goodwill in the equity-accounted entities*

(€m)		Q1-24	Q1-23
Net income Group share - stated	[K]	1,903	1,226
Impairment of intangible assets	[L]	0	0
IFRIC	[M]	-110	-549
Stated NIGS annualised	[N] = ([K]-[L]-[M])*4+[M]	7,944	6,553
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, foreign exchange impact, annualised	[O]	-799	-564
Stated result adjusted	[P] = [N]+[O]	7,145	5,989
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg *** (3)	[J]	44,671	42,306
Stated ROTE adjusted (%)	= [P] / [J]	16.0%	14.2%
Underlying Net income Group share	[Q]	1,933	1,249
Underlying NIGS annualised	[R] = ([Q]-[M])*4+[M]	8,063	6,645
Underlying NIGS adjusted	[S] = [R]+[O]	7,264	6,081
Underlying ROTE adjusted(%) (1) (2)	= [S] / [J]	16.3%	14.4%

**** including assumption of dividend for the current exercise*

(1) Underlying : see appendixes for more details on specific items
(2) Underlying ROTE calculated on the basis of an annualised underlying net income Group share and linearised IFRIC costs over the year
(3) Average of the NTBV not revalued attributable to ordinary shares calculated between 31/12/2023 and 31/03/2024, (line [E]), restated with an assumption of dividend for current exercise

代替的業績指標[68]

NBV（純資産額）（再評価されない）

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に相当しています。

1 株当たり純資産額、1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1 株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング 4 四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。
2019 年第 1 四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。
この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

要注意債権はデフォルト状態の債権です。融資先は、次の 2 つの条件のいずれかが満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

MREL

MREL（自己資本及び適格債務にかかわる最低要件）レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」（BRRD）に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU 全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。「BRRD2」として知られている 2019 年 5 月 20 日付の指令(EU) 2019/879 は BRRD を修正し、2020 年 12 月 21 日付オルドナンス 2020-1636 によってフランス法に置き換えられました。

MREL レシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために要求される自己資本と適格債務バッファーに相当します。BRRD2 の下で MREL レシオは、リスク・ウェイト資産（RWA）並びにレバレッジ・エクスポージャーの比率（LRE）として

[68] *APM は、財務諸表には表示されず、会計基準にも定義されていないが、基礎純利益グループ帰属分や RoTE などの財務情報の提供において使用される財務指標です。これらは、会社の実際の業績を理解しやすくするために使用されます。各 APM 指標は、その定義において会計データとマッチングされます。*

表される、適格資本と債務の金額として計算されます。合計 MREL レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債（満期まで 1 年以上のもの）といったコーポレート・センター及びクレディ・アグリコル・ネットワークの関連機関発行の適格債務です。

減損（又は不良）債権引当率

この比率は、引当金残高を減損顧客貸出金総額で除して算出されます。

減損（または不良）債権比率

この比率は、個別に評価減された引当金控除前の顧客貸付総額を、顧客貸付総額の合計で除算したものです。

TLAC

金融安定理事会（FSB）は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）のベイルインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力（TLAC）レシオは、破綻処理前及びその最中に G-SIBs がベイルインと資本増強の充分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行（したがってクレディ・アグリコル・グループ）に適用されます。アグリコル TLAC レシオの要件は、CRR2 を*介して*EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となりました。

TLAC レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、クレディ・アグリコル S.A.が発行した満期まで 1 年以上の劣後債及び適格非優先シニア債です。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

基礎純利益グループ帰属分

会社の実際の利益を分かりやすくするため、基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因（非経常的項目や例外的項目）控除後の表示純利益グループ帰属分を表します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE（有形株主資本利益率）は、年換算後の純利益グループ帰属分を無形資産及びのれん控除後のグループの NBV で除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。年換算後の純利益グループ帰属分は、純利益グループ帰属分を年換算（第 1 四半期 X 4、上半期 X 2、9 ヶ月累計期間 X 4/3）し、無形資産の減損を除外し、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正したものに相当します。

免責事項

クレディ・アグリコル S.A.およびクレディ・アグリコル・グループの 2024 年第 1 四半期の財務情報は、本プレゼンテーション、添付の付属資料、プレスリリースから構成されています。これらは、https://www.credit-agricole.com/en/finance/finance/financial-publications で入手可能です。

本プレゼンテーションは、当グループの動向に関する情報として提供される将来の情報を含む場合があります。このデータは、2019 年 3 月 14 日の EU 委託法令 2019/980（第 1 章第 1 条 d）の意味での予測ではありません。

この情報は、一定の競争環境や規制環境における多くの経済的仮定に基づいたシナリオから作成されました。したがって、これらの仮定は、実際の結果が予測と異なる原因となりうるランダムな要因に左右されます。同様に、財務諸表は、特に時価や資産の減損の計算において、見積りに基づいています。

読者は、自らの判断を下す前に、これらすべてのリスク要因と不確実性を考慮に入れる必要があります。

適用基準および比較可能性

2024 年 3 月 31 日までの 3 ヶ月間の数値は、欧州連合で採択され、同日に適用可能な IFRS 及び施行されている適用可能な規制に従って作成されています。本財務情報は、IAS 第 34 号「中間財務報告」で規定されている中間期の財務諸表に相当するものではなく、監査を受けていません。

注記：クレディ・アグリコル S.A.及びクレディ・アグリコル・グループの連結範囲には、AMF（フランスの金融市場庁）に提出されたクレディ・アグリコル S.A.2023 ユニバーサル登録文書と A.01 改訂版（クレディ・アグリコル・グループに関するすべての規制情報を含む）以降、重要な変更はありません。

表および分析に含まれる数値の合計は、四捨五入のため、報告された合計と若干異なる場合があります。

その他の情報

クレディ･アグリコル S.A.の複合株主総会は 2024 年 5 月 22 日にオルレアンで開催されます。

クレディ･アグリコル S.A.の 2023 年決算時に発表された通り、取締役会は一株当たり 1.05 ユーロの現金配当を株主総会に提案する予定です。

- 5 月 29 日:配当落ち日
- 5 月 30 日:基準日
- 5 月 31 日:配当金支払

決算スケジュール

2024 年 5 月 22 日	オルレアンにおける株主総会
2024 年 8 月 1 日	2024 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2024 年 11 月 6 日	2024 年第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

問い合わせ先

クレディ・アグリコルのプレス対応担当者

アレクサンドル・バラット	+ 33 1 57 72 12 19	alexandre.barat@credit-agricole-sa.fr
オリヴィエ・タサン	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
マチルド・デュラン	+ 33 1 57 72 19 43	mathilde.durand@credit-agricole-sa.fr
ベネディクト・グヴェール	+ 33 1 49 53 43 64	benedicte.gouvert@ca-fnca.fr

クレディ・アグリコル S.A.IR 担当者

機関投資家	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
個人株主	+ 33 800 000 777 （フリーダイヤル – フランスのみ）	relation@actionnaires.credit-agricole.com
セシル・ムートン	+ 33 1 57 72 86 79	cecile.mouton@credit-agricole-sa.fr

株式 IR 担当：

ジャン=ヤン・アセラフ	+ 33 1 57 72 23 81	jean-yann.asseraf@credit-agricole-sa.fr
フェティ・アズーグ	+ 33 1 57 72 03 75	fethi.azzoug@credit-agricole-sa.fr
ジョゼフィーヌ・ブルアール	+ 33 1 43 23 48 33	josephine.brouard@credit-agricole-sa.fr
オリアーネ・カンテ	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
ニコラ・イアンナ	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
レイラ・マムー	+ 33 1 57 72 07 93	leila.mamou@credit-agricole-sa.fr
アンナ・ピグレフスキー	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr

信用投資家および格付機関担当：

リタ・アラミ・ハッサーニ	+ 33 1 43 23 15 27	rhita.alamihassani@credit-agricole-sa.fr
グウェナエル・レレスト	+ 33 1 57 72 57 84	gwenaelle.lereste@credit-agricole-sa.fr
フローレンス・クインティン・デ・ケルカディオ	+ 33 1 43 23 25 32	florence.quintindekercadio@credit-agricole-sa.fr

すべてのプレスリリースは、www.credit-agricole.com-www.creditagricole.info をご覧ください。

Crédit_Agricole　クレディ・アグリコル・グループ　créditagricole_sa